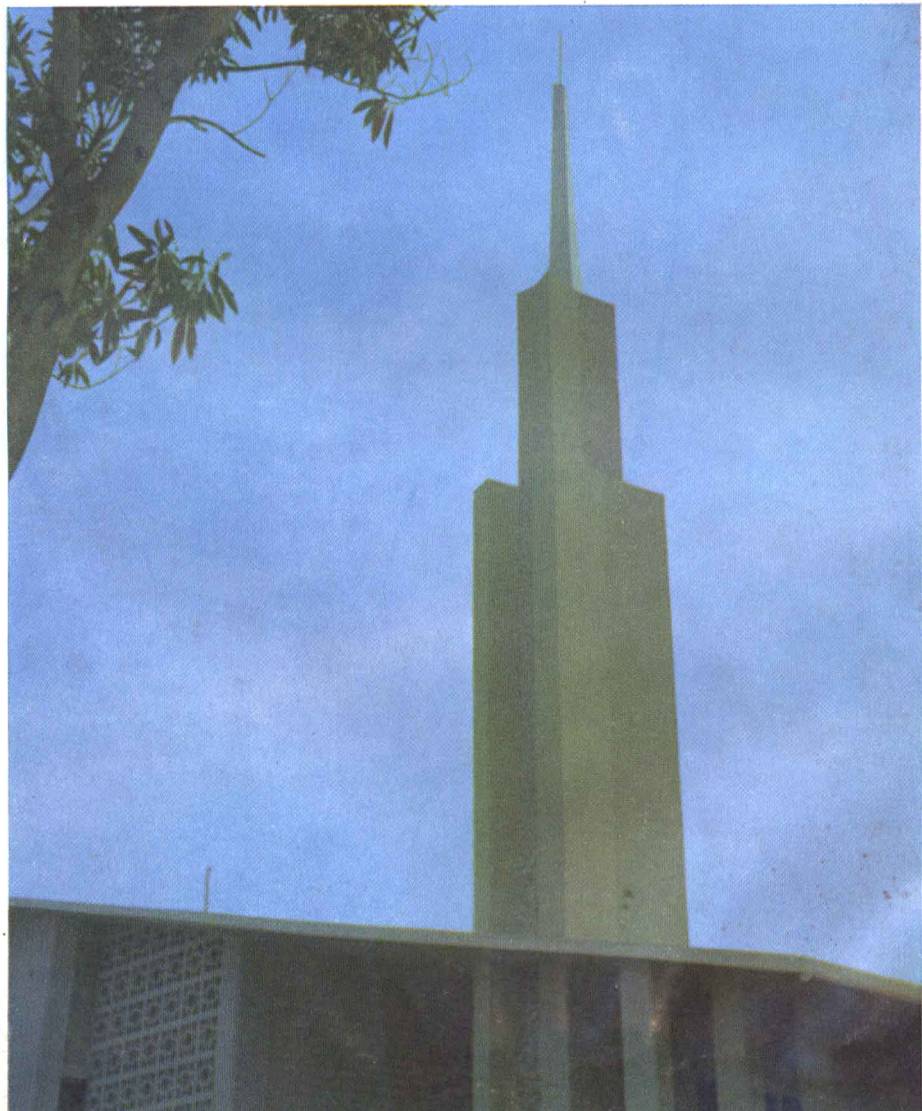


聖徒の道

8

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第9巻第8号 1965年8月1日発行

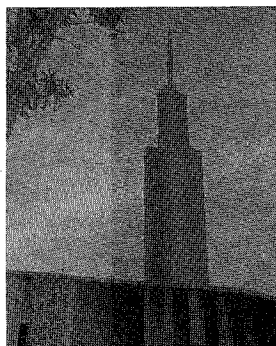
SEITO-NO-MICHI



聖徒の道

第9巻
第8号

1965年 8月号



完成なった沖縄那覇支部

— も く じ —

道であり真理であり命である	デビッド・O・マッケイ	377
伝道部長メッセージ……教会制度に従うこと	ダウエン・エヌ・アンダーセン	382
偉大な人アンダーセン伝道部長……伝道部長を称える	山田五郎	385
日本……伝道部の歩み	ゴルドン・B・ヒンクレイ	391
大先生イエス 教師訓練のために	ローウェル・L・ベニヨン	396
指導精神の啓発……指導者になるために		400
M・I・A計画……一九六六年度の指針	佐藤襄二	404
私の証詞……真心からの祈	林忠夫	408
地方部だより……北海道地方部		410
……東中央地方部		415
支部だより……札幌支部他		418
系図協会からの便り……国島姉妹へ	南城洸子	421
実話……失われた子は見出された	ジョン・G・キンナー	422
えいこのページ		427



大管長 デビド・O・マッケイ

神を信ずる信仰、世の救い主であるイエス・キリストを信ずる信仰、一生を通ずるみちびきとしてイエス・キリストの福音を信ずる信仰、心の底からわいて出る故に真正である信仰、高いそして神のような行ないを起させる信仰、このような信仰こそびくともしない無限に大きい心の錨である。

道であり真理であり命である



デビド・O・マツケイ

最後の晩餐の後、他の使徒たち及び彼らの主と共に坐っていたトマスはたずねました。
「どうしてその道がわかるでしょう。」

キリストは答えました。

「わたしは道であり、真理であり、命である。」（ヨハネ伝一四・六）彼はそうであります。
彼は私たちの慰安の源であり生涯の靈感であり救い主であります。

私たちがもし、私たちと神との関係を知ろうと思うならイエス・キリストに行きます。
私たちが靈魂不滅の真理を知ろうとするなら、救い主の復活にその模範を見るのであります。
もしも私たちが仲間の間に導きとなる理想的な生涯を学ぼうとするなら、イエス・キリストの中にその完全な模範を見出します。
如何なる私たちの貴い望み、高い抱負、生活の如何なる面の理想も私たちはキリストにその完全な姿を見出すことが出来るのであります。
ですから人間の道德の標準を求めらるなら、私たちは唯ナザレ人の前に行き、彼の中に

完全な人間を形成しているところのすべての道徳が身についているのを見出すでしょう。

これらの完全な人格を結集しているところの徳は真理、正義、知恵、慈悲及び自制であります。彼のすべての思想、言葉及び行為は神の律法と調和しておりますから真理であります。彼と天のお父さんとの間の交通の道は常に開かれていたので啓示に盛られてある真理は常に彼に知らされるのであります。彼の理想と正義はその勧告々だから何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりとせよの中に総計されております。

彼の知恵は非常に広く深く人の道と神の目的を理解しております。使徒たちは常に必ずしも彼の簡単な言葉の重要性和深さを理解することが出来ませんでした。律法学者は彼をおとしめることもあるいは議論に打克つことも出来ませんでした。最大なる教師も彼の前では凡人に過ぎませんでした。短かかったけれども多事多端の彼の生涯のすべての行為は情けと愛を含む慈善でありました。彼の欲望及び感情を制する力に実証された自制心と言ひ、又迫害者の前に立った時の権威と態度と言ひ完全であり神性でありました。

ではこれらのすべてを含む徳についての教会の教えはどうでしょう？、もしも教会が人をつくることに失敗し道徳的な人間を育成出来なかったら、その存在理由はなくなり、キリストの教会のように装っているのはこっけいであります。

予言者ジョセフ・スミスは靈感されて言っております。

「真理とは、事物の現在あるがまま、過去にありしまま、未来にあるがままの知識なり、およそこれよりも過ぎたるもの、及ばざるものは太初より偽り者なりしかの悪魔の靈気なり。真理の「みたま」神より出ず。」(教義と聖約九三・二四—二六)

彼は更に誰も彼の誠命を守らずして真理を完全に受けることは出来ないと申しております。ここにこのわずかな言葉の中に単に真理の定義のみならず、それを入手する方法

も与えられているのです。

真理を愛さずして誰も真の末日聖徒になることは出来ません。真実であるということは教会の根本的な教義であります。私たちがふりかえってこの意味を考える時、人格をきざぎあげるのに真理が如何に重要な要素であるか覚るであります。真実な人は真直ぐで良心的であり、すべての為すことが高貴であり、その義務を遂行することに忠実であり、信頼するに足り責任を果たすことに勤勉であり、彼自身に真実でありますから彼の隣人及び神に対しても真実であります。

正義はすべての人に正当な又は当然の賞罰を与えるものであります。正義であるためには人は正直で公明正大で公平でなければなりません。彼は又尊敬の念厚く、敬虔であります。人は正義であって同時に不尊不敬虔であり得ません。何となれば不尊であり敬虔の念に欠けるものは不義だからであります。

教会のすべての教えは不義に反対しておりその非難は兄弟を圧迫する者の上に最も厳しいのであります。会員たちはその権能を正しく行使するように勧告されております。天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり。(教義と聖約二二・三六)

すべての人に対して、また信仰ある家族に対して、汝の腹中を慈愛にあふれしむべし。絶えず徳を以て汝の想を飾るべし。然る時は汝の自ら信ずること神の前に強くなりて、神権の教理は天より下る露の如くに汝をうるおさん。(同上二二・四五)

正義の中に含まれている正直は、信仰箇条第十三条の最初の徳として挙げられております。それは人間社会の第一原則の上になつております。そして人間道徳の根本原則であります。不正直で人と交際することは出来ません。

自分自身に又他人に正しくあるためには、人は彼自身及び他人に正直でなければなりません。

せん々この事は言葉においても行ないにおいても正直であることを意味しております。それは半真実又同様に不真実を告げないことを意味します。それは又私たちが売買に正直であることを意味します。それは口頭の約束を法の力で否定するようなことなく、人の言葉を証書よりも重んずることでもあります。それは私たちが主との契約に正直であることです。

々それは、必ずしもすべての人信仰なきがゆえに、汝ら努めて求め、互いに知恵ある言を教うべし。しかり、汝ら最も善き書より知恵ある言を探し求めよ。また正に研究と信仰によりて学問を求むべし。々(教義と聖約一〇九・七)

このような誠命が予言者ジョセフ・スミスを通じてこの世代に与えられました。私たちが人の永遠の救い、人への神の最大なる賜が彼の知識にかかっていることを知ったらこの誠命の重要さがもっとよくわかるであります。々人は無智にして救われること不可能なり々(教義と聖約一三二・六)

知恵は知識を正しく用いる事であり、よく判断し識別し分別し決定し学ぶことであります。

慈善は徳のすぐれたものの総計であり、すべての他の徳を含んでおります。それは私たちを刺戟して他人に善を為し、私たちの生涯をキリストのために生きるように導くものであります。

すべての親切な、自己否定の、献身的な寛容な情あり愛ある行為はこの神性な属性から湧き出て来るのであります。慈善心に富んだ人は親切でその家族に真実であり、その国において善のために積極的に活動し、教会に在っては忠実に働らきます。

真実、正義、知恵及び慈善の諸徳は偉大ではありますが日常生活において自製の徳種実

實際で、よく適用されるようではありません。誠にもしも眞実の人間のこれらの要素が達成されていないとしても少くともそれらは自制心を通じて現わされているのであります。丁度、日中から太陽を切り離して考えることが出来ないように、自制心から道徳的な人を離して考えることは出来ないであります。

自制は、すべての私たちの自然な欲望、望み、感情、感動を治め調整することで自己に打克つこと程、人に強い性格を与えるものではありません。それは自己の欲望と感情を己に従属させそれらの奴隷とならないことであります。この徳を理解するにはその中に含まれている他のものを挙げるのが最もよいでしょう。その中のあるものは慎み、勇氣、氣力、節制、獨立心、忍耐、利欲、適度、不屈、希望、貞節、我慢、柔順及び純潔であります。

けれども眞実の人間として進歩するように努力するには私たちはキリストを道として眞理として生命として受け入れねばなりません。彼は單に眞理、正義、知恵、慈悲及び自制を持っており又教えただけでなくそれらを実行したのであります。人が正しいと知っていることをなすところに男らしい強さの秘訣があるのであります。人は日常の生活において神の教えと誠命に違反していて神とイエス・キリストの神性と全能の力を眞に信ずることは出来ません。

今日私たちが必要としているのは福音の実践であります。それは高貴な行為を以て説教することでありましてこれは敵の注目と尊敬さえ克ちとるのであります。キリストの生涯は眞の男の生涯であります。キリストの福音はその達成法を指摘しております。教会はそれを展ばすのに理想的な手段であります。けれども眞の道徳的な人格は只個人個人がその日常生活に実行することで、それが單に人格のみならず幸福と永遠の生命を達成するのであります。

伝道部長メッセージ



ダワエン・エヌ・アンダーセン

愛する会員のみなさま、私たちは教化されて、神と人との像に成長し、教会の完全なプログラムの準備を改善すべく教会の制度に従おうではありませんか

カリフォルニア、ステーク部の一ワード部の柔かな明かりの教会堂の中で聖餐式の時に解任されたそのワード部の監督の送別会が併せて行なわれました。ステーク部長は監督がその職業によい地位を得たことを喜びましたが同時にそれは彼の友の監督が転任するので監督を解任されることに於て悲しみでもありました。ステーク部長は、その話の中でワード部の会員たちがこのように献身的な監督の下で如何に祝福されていたかと告げ、その真実な奉仕に對し涙を流して感謝しました。けれどもステーク部長がこの監督に就て最も褒めた言葉は恐らく彼がその友人に語った次の言葉であつたことでしょう。

「私がこのステーク部で共に働いたすべての監督の中で彼のみがそのワード部の会員が直接私のところへ相談に来なかつた唯一の監督であります。彼のワード部の会員たちは彼がよく彼らのことについて関心を持つており、主に近く生活しており、彼らの問題について彼らの助けとなることを知っているのです。これは彼に對する最大なる讃辞であります。私は彼がこのステーク部から去ることをどんなに惜しんでいることでしょう。」

監督たる者は、神に仕える者として、責められる点がなく、わがままでなく、軽々しく怒らず、酒を好まず、乱暴でなく、利をむさばらず、かえつて旅人をもてなし

善を愛し、慎み深く、正しく、信仰深く、自制する者であり、教えにかなった信頼すべき言葉を守る人でなければならぬ。それは彼が健全な教えによって人をさとしまた、反対者の誤りを指摘することができるためである。(テトス書一・七一九)

監督はワード部の父親として知られております。彼が神からの召しは彼が管理する貴重な一群の人の世話をする責任であります。彼はその一群を導き勧告する力を上から着せられておるのであります。

愛する本伝道部の会員の皆さん、支部長の召しは監督の地位と同じであります。ワード部ステーキ部が組織された時、支部長の地位は監督の地位になります。教会統治の権能の系統及び貴方が助言を必要とする時何処に行くべきかについて貴方がたがよく理解されるようにこれについての或考えを皆さんにお分ち致しましょう。

監督は彼のワード部の管理者であって彼の補佐もワード部の会員も皆様の指示の下にあります。彼はそれを止めることも他人に与えることも出来ません。もし彼がそうしたとしたら彼は神権の神性な統治原則に違反したことになります。彼は第一、第二副監督に指示して彼の意志通りに又は望むように或は命ずるようにしてもらうことは出来ませんがこの場合副監督は監督として行動するのでなく、その管理の下にあって行動するのであります。

(福音の教義ジョセフ・F・スミス一八五頁)

監督は彼が管理する会員たちの生活の鍵であります。

ワード部内において会員たちの進歩の為に行なわれるいろいろな集会和活動はすべて監督の権能の下に行なわれるのであります。長老が聖霊の賜を授ける按手礼を行なうのも彼の指示の下になされるのです。神権の聖任また昇進も彼が決定するのであります。アロン神権の職或はワード部の補助組織の教師役員を任命する権利は監督のみが持っているのであります。神殿の推薦状を書く権能も監督にあります。福祉の援助を決定するのも監督であります。貴方の霊的成長及び進歩をもたらすすべての儀式と活動は直接貴方の監督と結びついているのであります。監督は、教会統治の鍵であります。さて今迄監督について述べたことは皆支部長に適用されるのであります。召しは同じであります。

もしも私たちが管理者の権利を理解するなら、私たちは主が監督または支部長に各会員に勧告する特別な力、賜を与えておられることを覚るでしょう。貴方が勧告または忠告を受けに行くのは支部長であります。過去において或会員たちは、自分の問題を年配の人に或は教会の古い会員に、又或場合には、宣教師に伝道部の翻訳者に相談に行けば助けられると感じていました。確かにこれらの人はよく通じており、多くの立派な考えを持っているでしょう。けれども彼らは、会員を管理するように召され又権能を与えておりません。私たちはまず私たちの

問題を支部の父である支部長の所へ持って行きその忠告を求めねばなりません。私たちが助けるように神から力を与えられているのは彼であります。

私は、神権と教会統治、という書の四七、及び四八頁から引用したいと思います。

神権を通じての教会の導き、

主がその民に啓示を与えようとする時、教義についての新しい項目を現わそうとされる時、或は懲罰を執行しようとする時主はその職及び召しに任命した人を通じて為します。その他の職又は召しはキリストの体をたて、聖徒たちを完成させるための助けとなるものであります。すべての部長、監督、長老、祭司、教師、執事及び会員は神権の段階に應じそれぞれの立場に立つて生命の言葉を伝え牧者として全世界における神の羊の群をそれぞれの部分を担当して見守るのであります。そして教会の大会長会の手を強めるように助けるのであります。

私は神がその教会をこの地上に組織されたことを知っており又、神が教会の事務を統治し管理する方法を変えようとする時は、正しく信仰しているすべての会員が理解し受け入れられる方法によってなされるであります。私は主がここ、かしこ、何処からでも、キリストであるとか、全能者であるとか、奇しき業をなすべく靈感された召された者であると主張するトム、ディック又はハリー、などを起さないであらうことを知っております。教会の組織が存在する以上、主はそのような方法

で人に対処しません。神権の定員会や評議員会が完全である以上、主はその目的を彼らを通じて現わし、トム、ディック又はハリー、を通じてません。どうぞ貴方のノートに記して覚えて下さい。それは真実であります。

地上における神の王国の統治はキリストの教会に委任されております。このことは人類の救いのための主の御計画をもたす責任が教会の上に置かれていることを意味しております。末日のこの地上における主の王国を治める秩序は整然と設定されており異なった段階の権能が教会の公式な地位に召された人たちにそれぞれ与えられております。啓示のみたまにより神権者がキリストの教会を治めるのであります。この制度の下で神権者は各人の福祉のために必要な命令、叱責及び祝福を授ける権能を持っております。けれども教会の役員によって認められた人に限ります。このような制度は完全であります。それは個人的な野望の屑或はあいまいな我がものとした権能から解放されたものであります。注意して進む者にはその道は明らかであり、その制度の下に生活する者は生涯幸福に榮えて行くのであります。

それは完全な秩序であり制度であり統治であり、これのみが現在人類が受けている悪から人の家族を救い、幸福と来世の至福を保証する唯一のものであります。

愛する会員の皆さま、私たちは教化されて神と人との像に成長し、教会の完全なプログラムの準備を改善べく教会の制度に従おうではありませんか。

偉大な人アンダーセン伝道部長

記 山田五郎 第一副伝道部長

その功績

過去三年の長きに亘って伝道部長としての大任をはたして下さった偉大な指導者、ダウエン・N・アンダーセン部長が惜まれつつ帰国の途につかれた。思えば最も重要な時であったここ三年の間、恵まれて偉大な指導者の導きがあったことただ感謝である。著しい発展をとげたのは全て彼に負うものであります。在任中においての功績はどれを取り上げても実に当教会及び伝道部の歴史を飾るものばかりでした。輝かしい功績の第一は何んと言っても名実共に御国の建設が始ったことと始めて建築宣教師が召されたこと。第二に、組織が充実され自分の責任が明確にされ、そして会員一人一人がなすべきことを行なうようになったこと。第三に神権定員会活動が行なわれるようになり、とくにアロン神権において、長老に關しては、定員会が四つに別れたこと。(近い将来また一つ増える予定) 第四に、MIA全国大会が二度も開かれたこと。第五に、始めて沖繩へ本土から地方部大会に出席するようになり昨年五月には伝道部役員が大挙訪れたこと。そして第六に夢にまで見た神殿訪問が実現

した。何んと言っても以上の功績は大きい。それに内助の功アンダーセン姉妹の影の力を決して忘れてはならない。二人は私達に夜明けをもたらして下さったようなものだと言っても決して過言ではない。ここに書いたことは部長及び姉妹が常に心にかけて進歩のために教え導いて下さった数々の教訓の中から、二、三のキーポイントとして是非憶えてもらいたいと思う次第である。と共に心からの敬意と感謝を表明するものです。

待望の夢『神殿訪問計画』

一九六三年の秋アンダーセン伝道部長と、新潟支部訪問を終えての帰り、車中から主が与えて下さった祝福、豊かな秋の実のりを見ながら話は将来の計画(昇栄を得る方法)へと進んでいた。「この地において指導性を高め御国を強めるためには是非とも指導者がしなければならぬことがある……」と言ってアンダーセン伝道部長は言葉が続け「一番必要と思われることの二つは何んと言っても神殿の儀式を受けることだ……」「二年以内に神殿訪問の計画を立てよう。」

渴いた者が水を求め飢える者が食を求めるように。神殿訪問、と言うひとは私の心深く入って行き全身にこだました。

神殿訪問は当伝道部の会員にとって夢であり、いつ実現することかまったく見当がつかなかった。経済状態を考え、時間的なことを思うと一瞬ためらはなかった訳ではないが、ニーファイの力強い証詞に力を得た。「……人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり……。」一瞬のためらいを見て取ったか部長は、現在の会員達の経済状態、準備期間等を細々と計算し可能性を説いた。勿論、反論する理由は何もない。ただそこ迄私達会員一人一人のためを思つて下さる部長の心を通じて主の御意志に接したような気がした。この世の中で私達に関心を寄せ心配をして下さる人は数多い、が誰れがここまで心配してくれるだろうか。

それから一年半の月日が流れ神殿訪問は現実となつてやつて来た。訪問前の歓びに満ちた希望、期待、証詞また祝福を受けて帰った歓びに満ちた顔にはかくすことの出来ない何物かがうかがわれる。そして異口同音にそれぞれ確信に満ちた証詞をする。東洋のこの地において夜が明けて白々と東の空から光がもればはじめた歴史の幕はここに切つて落された。歓びをもちたらずまでは決して楽な道ではなかった。幾多の苦難に直面し悩み苦しむことが多々あった。

飛行会社との交渉もその一つで、当初はターボプロップで一四一名乗りで一人あたり約十萬を予定していたが、残念なことにこの航空会社は国際航空協定外であるため他国から日本へ客を入れることは出来るが日本人を日本外に運び出すことが出来ず、どうしても運輸省が首を縦に振らなかった。そんな理由で航空機の交渉は振り出しにもどりパンアメリカン、ノースウェスト、日本航空等と交渉を

始めたものの私達の希望する額とは離れ過ぎて難行を示した。が「人がそれを為しとげるために前以てある方法」が備えてありました。丁度その頃在日米軍地方部長（陸軍中佐の会員）が休暇を利用してソルト・レークの大会に出席しての帰りハワイに立寄つて日本航空ハワイ支店長と話し合い東京本社で示すことの出来なかった額を示し書面にして持ち帰った。本社での交渉は言うまでもなく全て解決に至った。

計画通りに進めるためには資金が必要であつた。七月号で読んだ通り山中兄弟の助けもあつて真珠のタイピンと、レコードが出来た。この二件に関しては税金の問題があつたために私達は再三麻布税務署へ赴き非課税となるように努力した。係の課長が自ら応対して鄭重に教えてくださった。決して外人だからではなく、そういう風に應對させる気持を自然に相手方へ伝える部長の人格のためだと私は思った。税金を二五パーセントも取られてはと心配の末、書類提出後間もなく無税との知らせを受けた。この頃には部長さんの白髪がめつかりふえて目立つようになつた。

神殿訪問に関して一番祝福を受ける人がいるならば外ならぬアンダーセン伝道部長にちがいない。この偉大な指導者に、心から感謝しよう。

主の家が建つた

水は容器以上には入らない。容器無しではこぼれてしまう。戦後教会がこの地に再び伝道を開いて以来数多い宣教師達が汗水流して私達日本人のために救いの道を説き続けその道に従う者の数も多くなつた。そしてほとんどの支部は日本人によって管理され運営され

るまでになった。発展の一途にも幾多の問題があつて、私達は、写真や絵やまた話に聞くステーク部、ワード部の集会場をうらやましく思っていた。仮の集会場であるためにあつてはならぬハンディを感じたりした。そんな中で一九六二年九月三十日、朝夕めっきり涼しさを増して来た初秋の午後東京の西北で一大歴史が綴られることになった。極東におけるこの一大歴史的ひと時を見、また参加せんと集った人々の中には在日米軍の会員達もまじっていた。千三百坪程の土地も極寒極暑に耐えてこの日を待ったに違いない。美しい讃美の歌が都会の空に消えて行くと、しばらく聖徒達は頭を垂れて静寂が続いた。その中で長いスコップの柄だけがびんと立って目について。聖徒達の注目のうちにアンダーセン伝道部長のスコップが最初に地中へと入った。東京北支部に続いて西支部そして今は東、南、横浜、群馬、阿倍野、札幌、沖縄と主の家は建てられるに至った。建築宣教師も、会員も皆この建物に感謝の祈りを主にささげた。この輝しいアンダーセン伝道部長の功績は何んと言っても大きい。

貴方が永遠の生命を得るためには

ひとりの若者がイエスに近寄って来て言った「先生、永遠の生命を得るためには、どんなよいことをしたら良いでしょうか」また律法学者の一人は、イエスをためそうとして質問した。「先生律法の中で、どのいましめがいちばん大切ですか」。イエスは、第一も第二も、愛であると答えられた。若者は「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな、父と母を敬え、また自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」とイエスに言われて、「それはみな守って来ました。「それはみんな守って来ました。ほかに何が足りないの

しょう」。と若者は言った。イエスは彼に言われた「もしあなたが完全になりたいと思うなら、帰ってあなたの持物を売り払い、貧しき人々に施しなさい。そうすれば……」人は誰れしもよりよくならうと、または今持つ物より更に大きな物を望むものです。犬が一切れの肉を口にくわえてある小川の渡し板にさしかかった際、水面に映る一匹の犬が肉をくわえてこちらを見ているのに気づき他人のものが良く見える性質を地で行ったこの犬は、水面に映る犬の肉も取ろうとして自分の肉も小川に落した。と言う物語を私達は知っている。パリサイ人はイエスに、神の国はいつ来るのかと、尋ねるとイエスは答えて言われた。「神の国は実にあなたがたのただ中にあるのだ」と。富める若者に持ち物を売り払って、隣人に与えなさいと言われたのは、イエス自身がこの若者をよく知っておいでになり、彼にとつて一番大切なことは持ち物を売り払い、貧しい人々に与えることであつた。イエス・キリストを十字架への道へと裏切ったユダにとつて一番大切ないましめは、忍耐であつた。ソロモンには色情に勝つことがそれであり、私達一人一人にもそれぞれイエスが言われた大切ないましめの他に、是非守らなければならないいましめがある。このいましめを一時も早く悟り、いつ時も早く守る人程早く完成への道を歩むことが出来る。

アンダーセン姉妹はこう言う。「若者にとつて、自分の持ち物を売り払い貧しい隣人に与えることが彼にとつて一番大切であつたように、あなたにとつて最も大切なことは「今守っていないいましめを守る」ことが一番大切なことであります」と、私達はこの言葉の意味を良く吟味して心の中に入れておく必要がある。

この水を飲む者は

私たちは良いことでもあり、困ることでもある一つに、忘れると言うことがある。忘れることなしに許すことは難かしい。しかし万事を忘れては誠に困る。とこしえの生命に至る道を歩むために、主は近代の予言者を通して私たちに、熱心に求め、最も良き書より学ぶよう教えられた。しばしば集まって聖餐にあづかるように指示された。家庭集会において、モルモン経を読むよう勧められ、日曜学校へ来るよう誘われる。そんな時に誰れしも思うことは、何故毎週行く必要があるのだろうか？ そんな場所へ行かなくても自分さえその気になっていれば教会まで足を運ばなくても良いではないか。安息日だからとか誠命だと言うことは新たに聞かされるまでもなく知っている。けれどなんとなく物足りなくって、しっくりしない。そんな時に偉大なアンダーセン伝道部長のあの言葉を思い出そう。それは……今一つのバケツを想像して下さい。このバケツには穴があいていて、中に入れるものもがもれて外へ流れ出すようになっていく。穴のあき具合は一度いっぱいにしておくと丁度七日、一週間で空になるように出来ているので、その時ごとにいっぱいに満さなければなりません。月曜日に少し、火曜日に少し、同じように土曜日迄毎日少しづつ流れ出し日曜日にはついに空になって仕舞う。そのままにしておけばそのバケツの水で生活する人はたちまち渇きのためあまり長くは生きて行けないことは明らかです。勿論このバケツは私たちの霊的な糧を入れておく容器です。一週間のうちに霊的なものはほとんど流れ出して底をつき、ついに無くなってしまう。教会以外の場所でのこの霊的バケツをいっぱいにしてくれる所はどこに

も無い。こんなすばらしい導きを与えて下さったアンダーセン伝道部長に心から感謝する。

「この水を飲む者はだれも、また渇くであろう。しかしわたしが与えた水を飲む者は、いつでも、渇くことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう」。

主が助けないもの

神は常にこの地上の人々を見守り助けを与えて来た。そしてこれからも助けを与えられる。「求めよそうすれば与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけ、そうすればあけてもらえるであろう（マタイによる福音書七章七節）この聖句を知る人は多いがその意味を取り違えている人もまた多い。現在の青少年対策問題の専門家は問題点として、「現在の青少年は欲しいものを得るために努力をしなくなった。こうゆう傾向が一番困る」と、機械文明の発達と共に少くない努力で（努力）大きな利益を求めようとしている（機械文明の発達は何ら責むべきものがない）が極端にいえば働かずして物が欲しい。ひと昔前までは欲しいものを得るために汗水流していた。いや働かなければならなかった。現代の傾向は、親が金の成る木であるかのように求めさえすれば与えられると思ひ、それがあたりまえのようになって来たと同時に求められるままに与える親の無責任も考えなければならぬが、全く悲しむべきことである。その結果大人になっても、まず求めることが先に立ち、努力して得ると言う重要な要素が影をひそめて来た。そんな人たちが成長して作る社会を想像しただけでぞうっとする。イ

エスは働くことの出来る身でありながら働くことを否む者は働いた者が得た食物を食べてはいけないと教えて下さった。一見無情に思われやすい言葉である。そこで如何に求めたらよいのか、そしてどのようにして与えられるか、をアンダーセン部長は「自分で出来ることに對して神は助けを与えない」と教えて下さった。だからと言って自分の出来ることを行なうに際し、助けを求めそして祈る必要がないと言う意味では決してない。行なおうとすることが神の御意志にかない、かつ計画にしたがって遂行出来るよう、更に自分の持つ能力を充分發揮出来るように祈るべきである。学者は「人間は自分の能力の半分も生かしていない」と言っている。神の助けが与えられないと思ひ悩む前に、神が与えた自分の能力に氣付けば、すでに神は助けの手を差しのべていることが解る。「神は自分で出来る事柄に對して助けを与えない」

傷つかない強い人

強い、と言う言葉は色々な用途がある。考えると、物質に對して、人間に對してまた抽象的なものに對しても用いる。そして私たちは五感を通して感じる弱いものの反意語として使う。物質であればまず使用目的に對して充分そして比較して長く使用可能であればこれを強いと言う。組織であれば、まず与えられた使命達成にあたり確實にかつ速やかに遂行出来れば強い組織と言える。人であれば才があり権力を持ち富があつて人を動かしかつ影響力を持ち更に堅固な身体を持っていれば大抵強い人を言うことが出来る。真に強い人には敬意の念が湧く。ところであるステーク部長は最も強い人が達成し得ることを決意して言った。今から私はどんなことがあつて

も感情を害されないようにする」と、公言した。(すでに実行しているのを後で紹介する) 実際問題としてこれ程難かしい約束は少くない。考えようによつては不可能に近い。ではあるが、またこれ程立派な約束もまた少くない。キリストは山上の垂訓と言つて有名な教えを八つの、さいわいである、いわゆる八福の教えから始められたことは知つての通りである。が、イエスは後にもう一つの、さいわいである、を付けくわえられた。「わたしにつまずかない者はさいわいである」がそれである。またヤコブの手紙を読むと「怒るにおそくあるべきである」と書かれている。つまり怒りと言

い共に、強い、の反意語である弱者の持つ特性である。私たちは言葉に、他人の行なひにまた自分自身につまずきがちである。

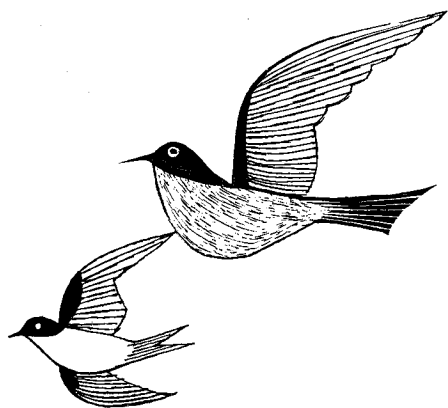
さいわいである、を付け加えられた、ヤコブの手紙を読むと「……怒るにおそくあるべきである」と教えている。つまり怒りと言ひ怒りと言ひこれ等は強い、の反意語である弱さから来る。福音を知り眞の教えを一度は証詞を述べたのち不活発となつていった人は少くない。この原因は決して証詞を否定しているのではなくそのほとんどが感情を害されたとか、役員から充分氣を配ってもらえなかった。認めてもらえないからと言う、心の不満等がおもな原因となつてゐる。私たちはつまずかせることの罪を良く知つてゐる。「……兄弟に對し罪を犯し、その弱い良心を病めるのは、キリストに對して罪を犯すことなのである」(コリント人への第一の手紙八章十二) またイエスのまわりに集つた子供たちを見て「しかし、わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、大きなひきうすを首にかけられて海の深みに沈められる方が、その人の益になる」(マタイによる福音書一章六節)と言われた。つまりずきの罪

は、つまりかせる者一人が犯すかのようにであるが、つまり、最大の誤りはつまりきを受けることである。ひとたびつまりきものを受け入れると、何んとかして固守しようとする傾向があるばかりか通常救いと引きかえにしてもあきらめない。支部長が責任を、自分が思う程、果していない。また支部長らしくないと思いつまづき物を招き入れ欠点を見出して、あの人が支部長であるかぎり私は自分の一を払わないと心に決め次に支持もしなければ、集会にも出席しないと云う。結局自分が招き入れたつまりきにより救いを台なしにしたことになる。中傷されやすい、弱々しくやわらかい心を作り上げて行くことは非常に危険だといわねばならない。そういう時には相手が何かしでかすのを待ってこの時とばかりに支持しない。

自分の一を払わない。集会に出席しない理由とする。とかく自分以外の人には最も完全に近いものを要求し遂に自分がそのことを問われるとつまりきしてしまう。いかにせよつまりきさせるか、つまりきを受けるか、または面つを立てることにつとめようとする時に私たちは今迄歩んで来た方向と正反対の道を急降下して行くことになる。

怒ること程危険なこともない。万一起怒ると体に悪い、そればかりか理性を失い善悪の区別が不能に落ちいる。こうなるとやっかいだ。事実カインも己れの不義のため主は捧げ物を受けてくれず「汝もし善きを行なわば受け納めらるるなり。」もし善きを行なわずば罪門口に伏し……（モーセの著五章二三節）と言われたのが怒るカインには道理が通じなかったし、理性も働かなくなつた。とかく傷つき易い心の持ち主がいかに弱いかを知らされる。強い信仰、強い証詞は強い、そして傷つき難い心から生じる。大部前のこと一年位と思う。北海道地方部の大会の帰路アンダーセン姉妹と話してい

た時そんな話にふれた折、姉妹は「私の主人は決して感情を害さない。何かあっても彼は『良く理解出来ていなかったから、そんなことを言ったのでしよう』とか『もし同じ立場であれば私も同じようにしたかも知れない。それに私自身がその人を良く理解出来ていなかったのかも知れない』と言って決して決して感情的にならない。『私も彼を怒らすことが出来ない』と話して下さったことがあり感銘を受けた。アンダーセン部長はまさにその通りの人であり身をもって示してくれた偉大な人が今迄私たちを導いて下さった。私たちは彼への心からの感情を身をもって行なう者として現わしたいものと思ふ。





(現在の極東伝道本部
東京都港区麻布広尾町14-2)

日本

十二使徒評議員

ゴルドン・B・ヒンクレイ

(この記事は十二使徒評議員であり、ハワイ——東洋伝道部長であるゴルドン・B・ヒンクレイ長老によって書かれ一九六四年の三月号エラに掲載されたものであります)

らの又その他多くの類似点が挙げられます。教会の会員にとってはもう一つ指摘する価値のあるものがあります。ヨーロッパで最初に伝道部が置かれたのは英国であり、東洋では日本であります。

けれどもここで類似点は終わります。英国に遣わされた者は習慣も同じく言葉も同じ民の間に到着したのであります。けれども日本に遣わされた者にとっては新しい世界でありました。当時そこにはヨーロッパ人は少くアメリカ人は更に少かったのであります。衣服、礼儀作法、制度すべてが異っていたのです。言葉は不可思議で最初はこれを解決することは殆ど不可能に近かったのであります。

日本は東洋の英国と呼ばれて来しました。この両国民に通じている者には、その相似していることは表面的なものであります。どちらも海峡を以て大陸からへだてられた一群の島から成立っております。どちらもその地理的環境から自然に、海上における大きな勢力となりました。どちらも帝国を建てました。国土の不足と天然資源の貧弱な為どちらも探検貿易、植民地を必要としたのであります。どちらも都市に多数の人口が集中して高度に産業化したのであります。八百万の人口を有するロンドンはこの地上で偉大な中心地の一つであり一千万以上の東京は世界最大の首都であります。これ

彼らは一九〇一年八月十二日の朝、東京灣に到着しました。一行は四人で三人の成人と一人の青年でした。その指導者は十二使徒評議員会々員のヒーパー・J・グラントでした。当時彼は四十四才でありました。二人のベテランの宣教師が彼に伴われて行くように召されました。一人は西部諸州で三年間の伝道を終えたばかりのホーラス・S・エンサインでありもう一人は、アメリカ、英国、ドイツで十年間福音を教えた経験を持ったルイス・A・ケルチでありました。これに日本で十九才の誕生日を祝ったアルマ・O・テイラーをもつて一行が成立したのでした。彼は日本人によって、ピンクの頬のテイラーと描写されておりました。

これらの人は献納の功勞を立てた開拓者たちでありました。テイラー長老は後に教会の大管長になった彼の指導者についてよく描写しております。

主の前に彼は子供のようにけんそんでありました。前途は未知で暗闇でした。神の靈感が必要であり、折りと断食と相談と働かざるを以て熱心に求められました。特にその進む道がはっきりしていない時に主と取り組んでいる使徒と共に在ったことは貴重な体験でありました。

一九〇一年九月一日、日曜日の朝四人の宣教師は横浜のホテルを出て市の南方の丘の森の中に歩いて行きました。そこで彼らは、感謝を神にささげん、を歌い代る祈りしました。次の歌に続いてグラント大管長は献納の祈りを捧げました。そのお祈りについてテイラー長老は次のように書いております。

彼の舌は解け、みたまが強く彼の上に降りました。そして私たちは天使が身近にあるのを感じる程でした。彼の口唇から言葉が出て

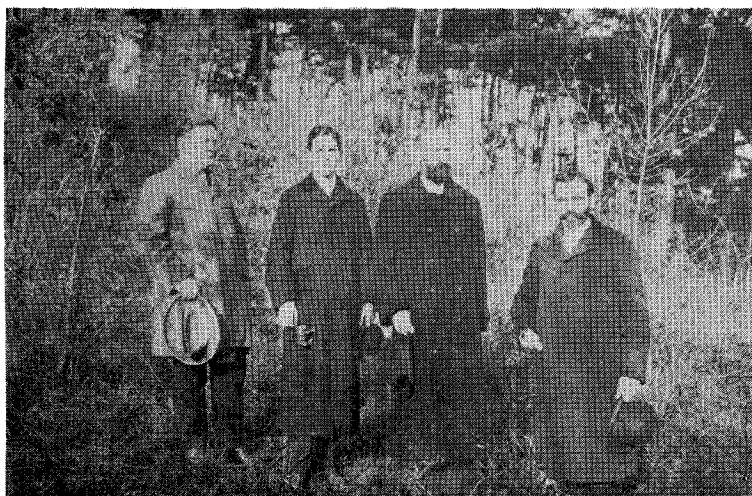
来るにつれて私たちの心は中に燃え上りました。私は未だかつてそのような平安に満たされたことはなく又そのような力ある祈りを聞いたことはありませんでした。一言一句が私の骨迄貫き私は喜びの涙にむせぶばかりでありました。

この地は、真理の宣言の為、又イスラエル集合についての主の目的をもたらず、この地上に義を建てる為に、献納されたのでありました。閉会の歌に長老たちは、奇しき業もて、を歌いました。

そこで献身的な働らぎが開始されたのですが、恐らく教会の伝道史上、比較出来ない程の失望状態であつたでしょう。グラント部長は、二年後に解任されエンサイン長老とケルチ長老はアメリカからの他の宣教師と交代になりました。アルマ・テイラーはほとんど九年間留り、その間彼は主としてモルモン經の翻譯と出版にあたりその写は皇室と政府役人にも贈呈されました。この、ピンク頬の青年は後に成人して日本の伝道部長になりましたが彼の努力は高く評価されねばなりません。

伝道部は一九二四年迄続きました。この二十三年間の歴史は苦闘と心痛を物語るものでありますが時たま忠実な男子又は女子が主のみたまにふれて勝利をもたらしたのであります。

日本は一八九五年に支那を一九〇五年にロシアを打ち破りました。その成功を誇り世界の舞台にだんだん力を加えて来たことを感じて日本は超国家主義の波に覆われて行きました。これは反西欧と自分の先祖の宗教に戻ることに表現されました。二十年代におけるアメリカ合衆国の東洋人移民禁止法は日本における反米運動を惹起しました。そして最高潮に達したので一九〇一年に伝道部を開いた使徒でその時教会の大管長になっていたグラント大管長は一九二四



き収穫の日の基礎であつたのであります。

その間に第二次世界大戦が起りました。このような一大不詳事に如何なる国民も大きな変化を受けずにはいられません。このような

年伝道部を開鎖したのであります。この二十三年間に百六十六人の改宗者がバプテスマを受けました。みのりはわずかでした。一九六三年度の只、一ヶ月で一九〇一年から一九二四年迄の合計数と同数の会員が教会に入つて来ました。その早期時代は主がそのみたまをこの地に注ぐ、来るべ

悲惨な経験に如何なる民も深く反省させられない者はありません。虐殺の戦場から、平原と化した幽霊のうろつく大都市から広島、長崎の苦い土の中から新しい民が新しい人が真に優れた国民が真に素晴らしい人々が来たのであります。

昔から彼らは福千年に戻るところの落ち付いた洗練された文化の要素を保存して来たのであります。これが日本の心であります。その輝かしい思想家たちは夢見、思索し、計画したのであります。これが日本の心であります。戦のよろめきの中から比類なき勢力をもつて、彼らは産業王国を建設したのであります。これが日本の筋肉であります。新しき夢をもつて彼らは迷信の足かせを脱ぎ捨て、前途を見つめているのです。これが日本の精神であり、多くの人の心の扉を回復された主イエス・キリストの福音に聞いているのであります。

一九四八年に宣教師たちは戻りました。現在ハワイ神殿の管理会長である当時ホノルルにいたエドワード・L・クリッソードが鎖された扉を開くべく大管長会によって召されました。彼は戦時中海軍将校でありました。適当な伝道本部を見つけることはほとんど不可能に近い任務でした。クリッソード部長自らが言っているように奇蹟的に市街の好適の地にかつて立派な邸宅であつたコンクリートの外郭を買うことが出来たのであります。焼夷弾が屋根に落下して下迄焼き尽くし内部を破壊して壁だけが骨のように残つたのであります。

その購入の話だけでもとてもここに書き尽くされません。只、建物のほとんど無い時に、政府の財産購入制限、外貨による不動産購入禁止法、建築資材の欠乏その他幾多の障害があつたにも拘わら

ず、その場所は確保され伝道本部は設置されたと述べるだけにしておきましょう。

一九四八年の感謝祭の日にクリッソード部長及びその補佐の数名の宣教師は建物内に坐を占めて主の恵みに感謝したのであります。その建物は世界最大の都市の心臓部麻布広尾町十四の二に在って、今日でも北部極東伝道本部であります。

この本部の開募は日本の新世紀のスタートの徴でありました。それから主のみたまはこの地に注がれたのであります。戻って来た最初の宣教師たちは、この長い遮断された年月の期間中、忠実に信仰を守り続けた聖徒たちを集めました。これらの者と軍人によってパテスマを受けた数名の者が中核となりました。

その進歩発展は劇的ではありませんでしたが堅実に進展して行きました。伝道部は南方琉球沖縄をも含みました。沖縄の那覇、普天間から北海道の旭川迄一千五百哩の距離に亘って二十九の支部が数珠のように横わっております。

アメリカの軍人を除いて日本には七千名以上の会員が居り、一九六三年度だけでも千五百人以上の改宗者が教会に入ってきたのであります。日本の兄弟たちが地方部、支部を管理しております。千名からの忠実な聖徒たちが東京の地方部大会に出席致します。

彼らの大部分はクリスチャンとしての過去の経歴を持っておりません。けれども彼らは世界中の教会の会員と同様に、この御業の真理に対する生きた確信をその心を持っているのであります。

改宗の仕事は未だに困難であります。今世紀になった時に伝道部を開いた人たちによって用いられた鍵、断食、祈り、相談、働らきは同じく今日の成果をもたらした鍵でもあります。私たちの宣教師

たちは彼らが教える人たちと三つの簡単な、けれども素晴らしい接触点を持っているのであります。そしてそれが彼らをとんとの外国人から目立って区別しているのであります。彼らは床に寝、箸を使って米を食べ、日本語を話すのであります。

新しい宣教師が東京郊外の羽田空港に降り立った時言葉はほとんど習得することが不可能に見えます。けれども努力と信仰と多くの祈りによって復活した主が使徒たちに告げた言葉、彼らは新しい言葉を以て語るであらう、が成就するのであります。

この力が深く達成された経験が日本における証会の時涙ながらに語った宣教師の言葉に現われております。

「私はホームシックにかかりました。言葉を学ぶことが出来ませんでした。私は主に数願しました。断食しました。私はどんなに乞ひ願ったことでしょう。そうしたら奇蹟的にホームシックが消え去りました。そしてそれからホームシックを感じたことはありません。日本語は前に一度学んだ言葉が戻って来たようになりました。」

気候は厳しくいろいろな重荷を課しております。酷暑は体を衰弱させます。冬は寒いです。一九六二年に長老たちは十呎の深さの積雪を切開いた道を歩きました。小さな火鉢又は石油ストーブが唯一の暖房であります。それから美しい日本の春が訪れるのであります。それは高い山々に清い流れ美しく耕された田畑のきれいな園であります。この田畑は千年の昔より遙かに肥沃となり生産されております。

それは巨大な産業国で戦禍の灰から奇蹟に立上ったことはわずかに西独を除いて世界の何れの国も比肩出来ません。

その民は希望に燃え、丁寧で親しみがありません。そして福音が彼

らの生活に触れた時、彼らは主とその道に大きな愛をもって忠実に
なるのであります。

聖徒たちは東京に今、建築宣教師たちの手によって完成されたば
かりの三つの新しい教会堂を持って居ります。

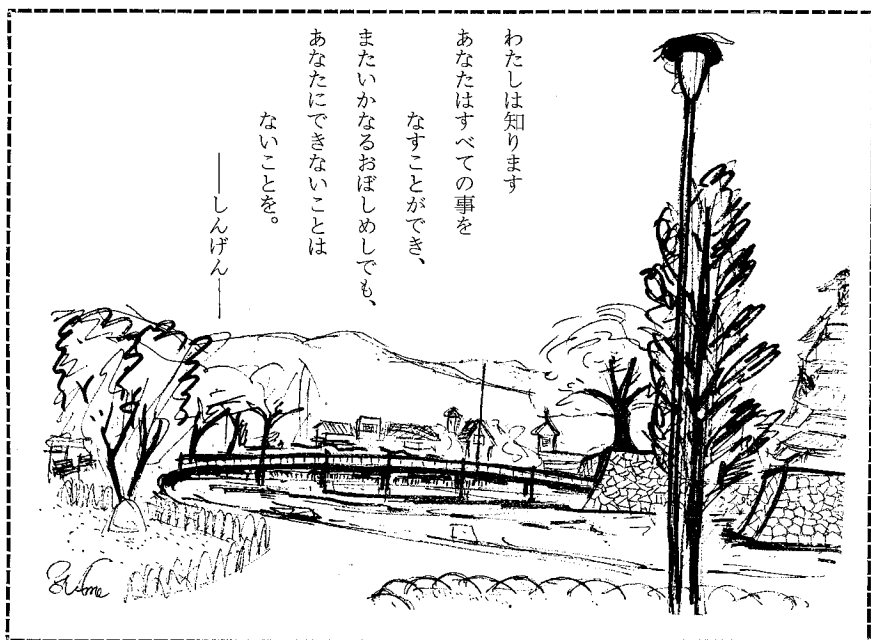
これらは偉大な計画の開始されたことを教会に信頼をむけるもの
で遙か太平洋の彼方に芽生えた会員の必要に応じて行かねばならな
いものであります。

今日約百六十名の宣教師がこの伝道部に働らいております。一九
〇一年から一九二四年迄に日本で働いた宣教師の倍であります。

現在のダウエン・N・アンダーセン伝道部長はアメリカの兵士と
して軍務に服していた時、沖縄の首里戦線の激戦でりゅうさん弾で
負傷したのですが、その時一万二千名以上の米兵が戦死し三万六千
名以上が負傷したのでした。彼はかつて吼える戦場で対面した人々
に対し愛をもって帰りました。彼は日本に駐留した数百のモルモン
の軍人の典型的な人です。彼らは薄給の中から日本の兄弟姉妹のた
めに建てられる教会堂のために数千、万弗も寄附したのです。また
彼らは日本人に福音を教えました。彼らは日本の兄弟姉妹たちと手
に手をとって彼の地に神の王国を建てるために働らいたのでありま
す。

一九〇一年のグラント大管長の祈りの中に、神権の力とイエスの
御名により悪魔に人々の心から手を離すように命じ、この地の主の
み業を妨害しないように叱責した、とあります。その使徒の祈りの
成就される日に太陽は昇ったのであります。

(写真はグラント長老と一行)



わたしは知ります

あなたはすべての事を

なすことができます、

またいかなるおぼしめしても、

あなたにできないことは

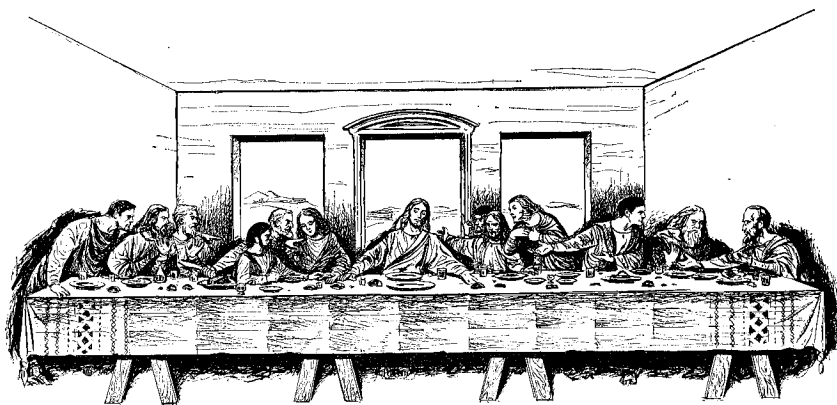
ないことを。

— しんげん —

大先生イエス

教師訓練のための

1965年度連続記事



イエスは人を教えた

ローウェル・L・ベニオン

はしがき

イエス・キリストは偉大な教師以上の存在でした。彼は神の子であり人類の救い主であり贖主であり私たちの救いの原作者であります。けれども彼が教育という職に、荣誉と卓越をもたらした教師であったことも覚えられべきであります。彼の言葉は学者、また同様に聖徒たちによって覚えられ引用されました。彼の時代にまたその後幾世紀も通じて無数の人が罪から義に失望から希望へ、うすべらな人生から充実した生涯へ彼のみたまと教えに接することによって生れ変わったのであります。

この記事の読者、主の弟子たちは神の子としてのイエスと分担しませんが教師としての彼と分担するのであります。すべての人は好むと好まざるとに拘わらず、その沈黙、無関心をもって、また同様に言葉と行為をもって、教師であります。この召しを私たちは彼と分担するのであります。

この教課においてイエスの教授法を検討して見たいと思います。彼の効果的な教授の秘訣は何でしょうか？ 私たち自身の教え方を改善するために彼から何を学べるでしょうか。これが私たちの勤めであります。この教課は研究し尽くそうとするのでなくむしろ刺激を与えようとするものであります。何となれば彼の尊い教授法のす

べての奇しさを誰が説明または記述出来るでしょうか？

イエスは人を教えた

教育界において二種類の教授法について多く言われて来ました。主題中心と生徒中心であります。第一はその内容、何が教えられるかを強調し、第二は生徒の生活に重点がおかれ、彼の感情福祉、知理解を強調するのであります。

この二つの強調は宗教の分野においては特に相互に分離する必要はないのです。生徒に意味のない教えは無駄であります。他面、学ぶ実体なくして霊的成長はあり得ないのです。

イエスはこの二つの伝統を美しく彼の教授法の中に混ぜ合せました。彼の箴言、譬対話、山上の垂訓の中に思想の糧が豊富にあります。この内容の豊富さに加えて教えられる人の覚醒をうながしているのであります。彼の思想、強調及びその調子さえも聞く人たちの興味に合せているのであります。丁度医者がその薬箱から薬を引き出すように思想の宝箱から特に彼の聴衆がその時に必要なものを与えるのです。彼は福音を教える以上のことをしました。彼は人々に福音を教えました但若い指導者、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、学者パリサイ人、マルタ及びニコデモに更にはっきりと教えました。彼の教えの内容については後述するとしてここでは彼が教えた人々への適用を強調し取り上げて見ましょう。

イエスは医者がすべての病人に同じ取り扱いをしないようにすべての人に同じレッスンを与えませんでした。医者はすべての彼の仕事において同じ情報の上に結論します。けれども彼の知識と熟練の特別な適用は彼の患者の状態によって決定されるのであります。イエスが彼自身、霊の医者として教えたことは彼自身の言葉か

らはっきりしております。パリサイ人が彼が取税人や罪人たちと会食しているのを非難した時に彼は言いました。

「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。……わたしがきたのは義人を招くためではなく罪人を招くためである」(マタイ伝九・一二、一三)

救い主のパリサイ人、罪人及び弟子たちへの指示は私たちにも適用されると同時にそれはほとんどすべての人には義を行なおうとする望みと共に偽善、罪、恐れがあることを証明しております。

説明

ヨハネ伝の八章の一節から十一節迄はイエスがいかに彼の教えをその場に合わせる人たちの必要に適したように教えたかのクラシックな一例であります。罪を犯した一婦人がパリサイ人たちによって彼の前に連れて来られました。彼らは彼女の身のためを思ったのではなく、救い主を欺いて自らを非難するような言葉を言わせようとしたのです。彼らは言いました。「モーセは律法の中で、こういう女を石で打ち殺せと命じましたが、あなたはどう思いますか？」

このような人ばかりで丁度舞台に引き出されたように、この婦人は自分自身の罪と、人前にさらけ出された二重の恥しめ受けているように思われます。パリサイ人たちは当然、姦淫に反対しておりますがそれ以上に明らかにイエスに対立しようとしていたのです。そしてイエスは、その婦人と彼女を咎める者たち両方の気持をよく感じとっていたのであります。恐らくそこには他の人々も彼がどうするであろうかと見守っていたでしょう。

この場合イエスはいろいろな教え方が出来たでしょう。もしも彼がこの主題を心にとめるなら彼は姦淫の悪を雄弁に説明してモーセ

の律法を擁護するでありましょう。何となれば彼の洞察力はモーセの律法に示されているものより遙かに深いからであります（マタイ伝五・二七、二八参照）あるいは彼ははその機会をとらえて婦人にその罪を責め悔い改めるように説教したかも知れません。彼は彼自身の律法と予言についての知識をもっているいろいろな行動することが出来たでしょう。

この話から判断するのにイエスにとって姦淫を禁ずる律法よりもっと大切なことは彼の前にいる婦人の内面生活であります。彼は姦淫を憎みましたが彼女を愛しました。彼はその時の彼女の霊的な必要をよく察したに相違ありません。既にパリサイ人によってへりくだらされた彼女に悔い改めへの信仰が必要であつたのであります。

そこで彼は彼の福音の頭脳、藁箱から彼女の生涯を変ええるに必要な原則を引き出したのであります。同時に彼は簡単ではありますが劇的な方法でパリサイ人たちが自らを義として己が罪に盲目なのに気づかせようとしたのであります。彼らに彼は言いました。「あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に石を投げつけるがよい」それから女に彼は言いました「……あなたを罰する者はなかつたのか？」

彼女は言いました「主よ、だれもごいません」そこでイエスは言われました。「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後にはもう罪を犯さないように。」

福音の一つを読んで大先生に従って行き彼の関心の焦点がいかに人の上にあつたかを観察しなさい。又彼がいかに聞く人々の経験の枠内で彼らの必要とするものを語つたかに注目しなさい。更にいかに彼らが感動させられたか、そして彼の話中に入り彼と共にあつた

かを覚えなさい。

さて、イエスがガリラヤの海を歩いておられると、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった彼らは漁師であつた。イエスは彼らに言われた。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」（マタイ伝四・一八―一九）

彼は十二年間病つた女の信仰の手の触れたのを感じましたが弟子たちは群衆だけしか見ることが出来なかつたのであります。（マルコ伝五・二四―三四参照）放蕩息子の譬の頂点はイエスの人々に対する深い関心を物語つております。

しかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなつていたのに見つかつたのだから、喜び祝うのはあたりまえである。（ルカ伝一五・三二）

主に見習いなさい

質問

一、教師たち、貴方のクラスにはどのような少年少女、男子、女子がおりますか？

二、名前を指摘しないで、彼らの霊的な必要にはどんなものがありますか？

三、貴方は来週のレッスンを準備するに当って誰のどのような必要に對しいかなる福音の原則をもつて答えますか。

或先生は彼のクラスに一人の青年を持っています。日曜学校が終ると彼は教師のもとに来ていかに彼がものおぼえが悪くかしくないので無視されているか告げました。彼はそう信じきっているようでした。丁度その次の週の主題は永遠の進歩でありました。それは

独特な、回復された福音の最も有望な原則でありました。先生はその神学的言葉の意味、生涯の偉大な栄光ある永遠の見かたについて考えました。けれど今後は永遠の進歩に向っての第一歩において自信のない、失望し恐れている人間に直面していたのです。先生はその永遠の原則を充分に信頼しながらも彼は今その原則を地上に引き降ろして若い兄弟に感じさせなくてはならないと覚りました。先生はそれを準備するに当って一人の若者の生涯の魅力ある話を見つめました。その若者はほしがられずに生れて来て愛のない母親に育てられました。学友から笑われ近隣の人からは駄馬のように取り扱われました。けれども彼は英雄のように肉体強健に正義感に燃えた人物に成長して行きました。先生はこの話を失望している日曜学校の生徒に話しました。その若い生徒は標的でありこの話は矢であり永遠の進歩は弓であります。クラスが終るとその若い生徒は先生のところに来て言いました。「私はその話の主役です」今日彼は産業界で責任ある地位に在り監督会の一員として奉仕し夫として父としての役目を楽しんでおります。

この若い生徒は例外ではありません。私たちのクラスのすべての人は誰か彼の霊的な必要を目覚めさせ満足させてくれる人はいないだろうかと飢え渴いているのです。イエスはこれをどうしたらよいのか最も傑出した方法を知っているのです。彼からまた私たちは私たちが教える者の生涯にいかなる相違をもたらすかを学ぶことが出来るのであります。

わたしは信じます、

生ける者の地で

わたしは主の恵みをみることを。

主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ、

主を待ち望め

—— しへん ——



△指導者のために▽

指導精神の啓発

私は成功するために何をすべきでしょうか？

パウロとシラスはピリピの獄中で面白い経験をしました。真夜中に彼らが祈り歌っていると突然、大地震が起って、獄の土台が揺れ動いたのであります。獄の戸は全部開いて、すべての囚人の鎖が解けてしまったのであります。獄吏は目をさまし、囚人たちが逃げ出したものと思いつるぎを抜いて自殺しかけました。けれどもパウロは囚人たちは皆ここにいと確言しました。そこで獄吏はパウロとシラスの前に跪いて「先生がわたしは救われるために、何をすべきでしょうか」と言いました。

パウロは獄吏に何をすべきかを命じ獄吏はそれに従いました。彼はその夜にバプテスマを受けて新しい人生を始めたのであります。獄吏は先ず必要を感じたのであります。彼はその回答を持っていると思われる人に教えを乞いました。それから彼のなすべきすべては命令に従うことでした。

これがほとんどの問題を解決する非常によい公式であります。それはイエスの勧告「求めよさらば与えられん」に適しております。獄吏は知リたかったのであります。知識は説明、討論、読むこと、考えることからたられれます。私たちの心に表現された一つの考えは連鎖反応を始めるかも知れません。そして電気計算器のよう

に、最後にその機械が止った時に、私たちは実行に移せるころのすべての回答を心の中に持っているかも知れません。私たちは多くの問題の回答をこのような過程によって得ることが出来ます。ある場合には事実が既に私たちの心の中にあるのですが誰か他人からの表現が反射作用をして私たちの考えを結晶させ、私たちの知能機関に適合した形に置かれるのであります。

この質問 *What must I do to be saved?* は七つの小さな一音節の言葉から成っております。けれどもその回答は恐らく獄吏にとつて救いそれ自体の価値あるものであります。わたしは救われるために何をすべきでしょうか？ は恐らく世の中で最も大切な質問であります。

二番目に大切な質問も非常に似通っているのであります。これもやはり七つの言葉から成り立っております。 *What must I do to be successful?* (私は成功するために何をすべきでしょうか？) 主の御業にたずさわっている私たちにとってこの七つの言葉は *What must I do to save others?* (私は他人を救うために何をすべきでしょうか？) の間に置き代えられます。私たちの指導下にあるすべての人が日の光栄の王国に入る資格を持っているかどうかを

見るのが教会の指導者たる責任であります。それはこの世の中で最大かつ最重要な任務であります。私たちはシオン山の救い手たちについて考え、語ります。それは簡単な任務ではありません。救い手となる唯一の道は誰かを救うことであります。それがイエスが人の一生をかける最も価値のあるものと言われたことであります。誰かを救うことは大変複雑な手続きであります。それでも他人を救うことは自分自身を救うことより複雑ではありません。多くの人がその生涯をかけても自分自身を救うことに失敗しているのです。

獄吏の質問に答えてパウロはかつてイエスが彼になしたように永遠の昇栄をもたらすにはなさねばならないある非常にはっきりしたことがあると示しました。さて成功も昇栄と同様に非常にはっきりした要求事項に基いております。私たち自身を救う過程を救いの過程と呼ばれて来ました。けれどもこの他人を救う過程は指導精神と呼ばれます。これらの二つは能力として知られる最も大切なものを含んでおります。神権は私たちに人を救う権能を授けますが指導精神は私たちに人を救う能力を授けます。双方ともお互いに他方がなければその価値が非常に失われるのであります。

私たちは権能を持っております。私たちにあって当面の大きな問題は能力を持つことです。ですから成功的な指導精神が私たちの最も大切な問題であります。人がもし誰か教え、訓練し、監督し、組織し、委任し、靈感し、刺戟することの出来る人の指示下に働けば兵士はよりよく戦い、商人はより多く品物を売り宣教師はより多く人を改宗することは繰り返し繰り返し事実として証明されたところであります。それが指導精神を物語るものであります。

少し以前に私はあるステーク部におりましたがその一ワード部

でアロン神権者の八十七パーセントが個人賞をもらいました。これは日の光栄の王国に入る時に私たちが証明せねばならない最上の手段であるかも知れません。同じステーク部の他のワード部では同様の青少年がわずかに十パーセントしか賞を受けませんでした。この相違は全く指導者の相違に起因しております。もしも貴方が八十七パーセントの指導者を十パーセントのワード部に移したら疑いもなくその低いワード部の成果が八十七パーセントに上昇するのを見るでしょう。それが指導精神の肖像であります。もしも貴方が十パーセントの指導者を八十七パーセントのワード部に移したら恐らくあまり経たない内に十パーセントに降下するでしょう。

獄吏は、私は救われるために何をすべきでしょうか？とたずねました。多くの聖典がまた数千の他の書物及び説教が私たちを助けるべくこれに答えて書かれ説かれました。もしも私たちが、私は成功するために、何をすべきでしょうか？とたずねるなら恐らくその答えは同じ長さに達するでありましょう。教会の大部分の書物及び討論が教会の教義、哲学または歴史に関したものであります。けれども実際にいかにこの教義を実生活に取り入れるかの考え、方法、手続については教会の中であまり提供されておりません。指導精神は管理の熟練、執行手続、訓練方法、道徳向上、人間関係の改善などすべての分野を含んでおります。指導精神は模範の力を含んでおります。それは人格、心、性能、感情のすべての資源を永遠の家族の昇栄という一つの目的に向って身仕度するように努めるものであります。

しかし、効果的な指導精神、と言われるならそれは明らかに世の中で最大な力であります。それを用いることによってもしその人が

そうしようと思うなら全社会の道徳も変更出来ます。指導者となることは只善人となることより遙か以上のことであります。指導精神は善意を他人の生活に活動させる能力であります。定員会長または監督またはステークホルダー長にとって日の光栄に入るための資格を身につけることは大きな業績であります。多くの他人を資格づける彼らの能力ほど偉大ではありません。教会の教義を全部暗記して実際にそれを実行しても、これらの教義を他人の生活に実施させる能力には及びません。

私たちの指導性の欠如は教会内においてもまたその人生においてもあまりのびない主な原因であります。人生の目的の一つは成功することであり、私たちは私たちの生涯を失敗に終らせるためにこの世に置かれたのではありません。失敗は罪であります。単に失敗自体だけでなくその原因も罪であります。もし獄吏が命令に従うことに失敗したとしたらそれは彼の弱さが原因しているのであります。もしも私たちが他人を救うのに必要なことをすることに失敗したらそれは私たちの弱さの徴であります。これらの弱点は克服されねばなりません。そして強くされねばなりません。私たちはある場合に、もし失敗しても栄えある失敗を、と云う歌を歌いますがそれは滑稽であります。栄える失敗などは有り得ません。すべての失敗は悲劇であります。私たちは失敗すべきではありません。また失敗してはなりません。永遠の生命は私たちの成功にかかっております。永遠に昇栄することは素晴らしい思想であります。ジョセフ・アジソンはかつて叫びました。永遠よ、汝は何と素晴らしい言葉であらうか。それでありましたから私たちが自分自身に問うべき最も大切な質問は、成功するために私はどうしたらよいだろうか？、そして

てその正しい答えを見つけることはいかに大切な事でありましょうか。

指導精神は芸術であると共に科学であります。そして誰もそのどちらにもマスターしたものではありません。誰も生涯の間に、医学について知るべきほとんどすべてを学ぶことのできる者はありません。私たちは指導精神について、より少く学ぶのは次の二つの理由に基いております。第一に指導精神はその範囲が他の科学より遙かに広いのであります。二番目に私たちは不幸にも普通にあまり指導精神に力を入れないのです。とにかく私たちはその可能性のほんの少ししか達成していないのであります。

多分エジソンだったと思いますが何事についても一パーセントの二分の一以上に知っている者は誰もいないと申しました。けれども私たちの学ぶ分野の広さに失望するならただ最大な不幸事がもたらされるだけであります。恐らく私たちの目的めざしてスタートするに最もよい地点は獄吏がスタートした処、私は成功するために何をすべきでしょうか？、であります。そしてもし私たちがその回答を得たら獄吏と同様にすぐ出発し、私たちの残りの生涯を勤勉に実行し続けるなら疑いもなく適当な成功の報いを受けるのであります。

そこで私たちは毎週、指導精神の小さな一角を取り上げて私たちが直ちに実行に移せるある回答を探すのです。こうして私たちはだんだんとよい指導者に進歩して行くのです。私たちは多くの資源から助けを得ることが出来ます。討論することは私たちの心をその問題に集中することに役立ちます。更に読書、思索は大いに私たちの助けとなります。私たちの学習上の最上の資源は偉大なる指導者の

生涯を学ぶことであります。これらの指導者のある者は聖典の中に記されてあります。ある者は私たちと共に教会の中で働いております。多くの偉大な指導者は他の分野におります。そして私たちが何れの分野に彼らを見出そうとも、成功する指導精神の原則は共通しております。私たちは彼らから指導精神を学んでそれを主の御業に活用せねばなりません。

ここに私たちの大きな助けとなる一つの大いなる考えがあります。昔のギリシャの画家アペルスと言う人から伝わった伝統があります。アペルスは紀元前四世紀に住んだ人ですが彼は世界を魅するような美の女神の肖像を画きました。彼は長い間広く各地を旅して、最も美しい女性たちの最上の特長を観察しました。そして彼は各人の中に見出した最も魅力的な資質を、この眼あそこの額と画きました。ここに特別な栄光をとらえあそこの稀に見る美を見出しそれらすべてを合せてその美しさは世界を魅惑する処の完全な女性の肖像、偉大なる傑作をもたらしたのであります。

すべての偉大なる指導者も合成物であります。各人は、多くのものが一つになっている、存在であります。私たち各人からある他人の属性を取り除いたら誰にもあまり残らないであろうと言われております。けれどもこの唯一の行程によって私たちが逢うすべての人から最上のものをとり集めることによって各人は最高の指導力を身につけることが出来るのであります。

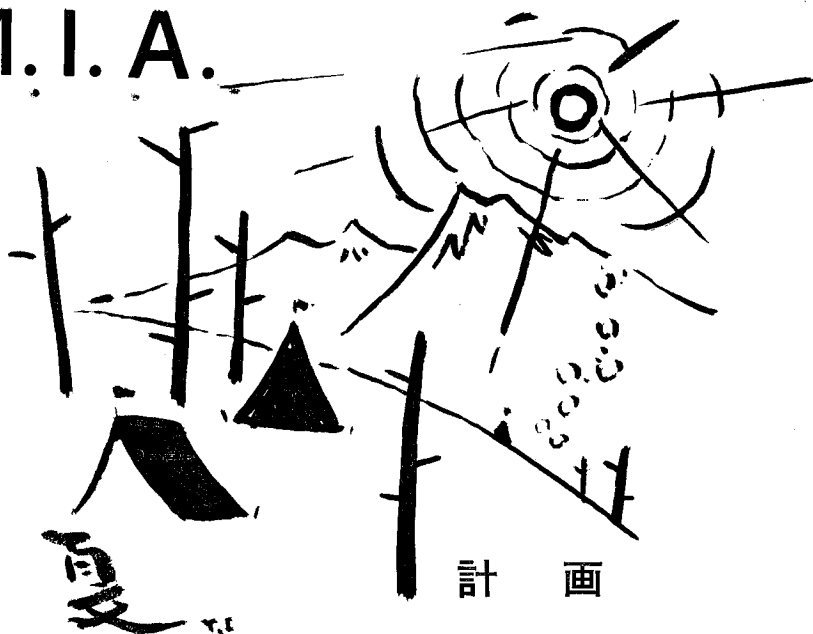
すべての者及びすべての物が何か私たちに教えているのであります。私たちはすべての最も立派なもの最も価値あるものを取り身につけることが出来るのです。このことを心にとめてよく考えるなら脳裏に捺印されて私たちが福音の知識を学ぶ時に規則に規則を加え

誠命にいましめを加えるように指導性を打ち建てて行くことができるのであります。そこで私たちはすべての自然現象で最大なる、いわゆる生長を経験するであります。

私たちの指導性の資質を改善する唯一最上の道は恐らく私たちの必要を覚えることであります。その自覚そのものが私たちが他人の中によい点を見出すのを助けるのであります。それはまた私たちが説き聞き思うことから最大な便益を得るのを助けるであります。私たちが全体の問題を定期的に少しずつ、ものにして行くように私たちは必要な能力に導かれて行くでしょう。主の靈感と祝福が潔め、全体を豊富にし、私たちはこの最大なる事業、主の御業の指導精神の新しい力と希望を収獲するであります。私たちの指導力は私たちを助けて私たち人生の二つの最大なる質問、私は救われるために、何をすべきでしょうか、及び、私は他人を救うために何をすべきでしょうか、に答えるであります。



M. I. A.



計 画

伝道部 M I A からの御挨拶

長い間、私たちモルモンが待ち望んでいたハワイ神殿訪問がやつと実現され、日本の各地から集められたモルモンの家族の一陣が初めて太平洋の海を渡ったのである。一行、百数十名の大家族の神殿訪問により、その家族たちは神からの身にあまる祝福と、同時に大いなる責任を与えられたのである。兄弟、姉妹たちの精神的、経済的援助は、そのために費やした犠牲の深さを考えた時に、最大限の奉仕となって再び彼らたちに還元されなければならない。本伝道部を更に発展させ、沢山のステーク部、ワード部が発足し、やがて神殿が献堂されなければならない。

九月から初まる M I A 新年度に先立ち、伝道部 M I A の役員に變動がありましたので発表致します。今迄、欠員になっていた Y M M I A 副会長に東京西支部の島田邦男兄弟が皆さまの支持を受け、按手任命されました。また、長い間、書記の職にあった塚田淑子姉妹（この六月末、西支部の鄭兄弟と目出たく結婚されました）を感謝の意をもって解任し、その代りに東京北支部の雨宮郁子姉妹が按手任命されました。「M I A 発表事項」にありますように、近い将来ステーク部発足に備え、新しい企画、新しい組織が発足し、それに伴う各支部からの要望、提案に充分に対処し得るよう、一層頑張りたいと思います。

M I A はその本質から云って、極めて実践的な組織であります。が、それだけ、時間的、空間的にいつも隔りのある各支部の M I A を如何に発展させ得るかは非常に困難であり、それゆえに私たち、伝道部 M I A 役員にとって大きな試練となるのです。と角すると組織を離れ、秩序を忘れて孤軍奮闘し勝ちになり易い各支部の M I A

役員皆さまも他の多くの兄弟、姉妹、お友だちの皆さんを充分に活用するよう、また、伝道部MIAにどしどし建設的な提案を下さいますようお願い致します。

主の御導きのもとに、神の御業が皆さまの支部で確実に行なわれ、沢山の隣人の進歩と発達のために奉仕される時に、数限りない御恵みと祝福が皆さまの頭の上にくる事を心から証詞致します。

(佐藤裏二兄弟)

一九六五年—一九六六年のMIA

貴方の出席しているMIAのプログラムは素晴らしいものだったでしょうか？ 何人のお友達を作ることが出来たでしょうか？ 何回ステージに立って、貴方の学びとったものを発表することが出来たでしょうか？ 貴方は



多分、支部のMIAで活発にプログラムに参加した人の一人だったことでしょうね。いつも、部屋のすみに隠れて座っていたのは貴方ではなかったでしょうね。与えられた責任をなめたのは貴方ではなかったでしょうね。

今年のMIAも素晴らしい夏のプログラムと共に終わろうとしています。

す。来月からは、新しいお友だちを迎えて、更に発展する貴方のMIAが始まります。今、貴方はMIAでどんな仕事を持っているのでしょうか。新しい年のMIAには是非、自から進んでMIAの色々な仕事を引き受けてみませんか？ 意外と自分の力に驚くものです。こんな才能があったのかと己れを見なおすものです。

さて、一九六五年—一九六六年のMIAのプログラムの中のレッスン、テーマ、読書課程を紹介しておきましょう。

まずMメン・グリーナーのレッスンは『素晴らしい考え』（定価二百円）です。以前学んだことのあるテキストですが、内容が面白く、読むたびに私たちに素晴らしい考えを与えてくれます。私たちに人生の素晴らしいおもいつきについて教えてくれます。

次にエンサイン・ローレルのテキストは『我らは奉仕する』（定価百五十円）このクラスは三年間で卒業して上のクラスに入る年令を対象としていますので、四年目に同じテキストが使用されることになります。しかし十五才以前からMIAに出席している人は、同じテキストを学ぶことになります。本伝道部のMIAがもっと、もっと発展しますと、マイア・メイドやスカウト、ヴァンガードやビーハイブ・ガールなど沢山のクラスが出来て、各々のクラスで別々のテキストを使用することになります。貴方の支部がワード部となり、大きなステーク部が出来ると、MIAもすべてのクラスをそなえた完全なものとなるでしょう。

次に一九六五—一九六六年度のテーマですが、モルモン経アルマ書三十四章三十二節「現世は人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である。現世の生涯は、人間が各々働きを遂行せねばならぬ時期である」です。この聖句はアルミとアミレクの説教の一節で

アミューレクの強い証詞が聖句となったところです。アルマ書の三十四章はアミューレクの力強い証詞と説教がいっぱいに書かれ、特に三十一節から終りまでの言葉は私たちの心を揺さぶらずにはおかenないことでしょう。このテーマは覚えるのにもそれ程むずかしくありません。

最後に新年度の読書課程ですが、いつものように経典ではなく、一年間「聖徒の道」を全部読むことになっています。「聖徒の道」には教会幹部の説教やクラスのテキストや、支部便りなどがあり、毎月面白く読むことが出来るでしょう。

一九六五年——一九六六年のMIAは、更に新しいプランが企画されていますし、楽しいスケジュールがいっぱいです。まだMIAに集ったことのない貴方のお友だちがいたら、次の機会には是非MIAにお誘いしましょう。

貴方の支部のMIAが輝かしい発展をとげることを心よりお祈り致します。

MIAの発表事項

(佐藤栄子記)



愛する兄弟、姉妹の皆さん、久し振りにこの「聖徒の道」の誌上を通じてMIAに関する発表をする機会がありますことを感謝致しております。一九六五年—一九六六年度のMIAは今まで実施されていなかった新しいプログラムが計画されておりますので御説明致します。兄弟、姉妹、それに新しいお友達の方々も

新年度のMIAプログラムに積極的に参加され、素晴らしい進歩と業績を残されるよう、心からお祈りしております。

1 マスターMメン・ゴールデングリーンナー受賞計画 長い間、切望されていた受賞計画が新年度から実施されます。この受賞はMメンとグリーンナーにとって、また末日聖徒として最も輝かしい光栄ある誉であり、このプログラムに挑戦することはMIAの会員に与えられた最高の特典であります。既に「受賞申請書」も出来上り、皆さまのチャレンジをお待ち致しております。

受賞に必要な「資格と条件」は「申請書(志願書)」に詳細に説明されております。また、各支部でも新年度のMIAのエンサイン・ローレルのクラスでも説明される予定です。この計画は十八才以上、三十才未満のエンサイン・ローレルの年令グループに属するMIAの会員に平等に適用されるもので、その期間内のうちの連続三年間に、予め定められた「資格と条件」を充足する時にのみ「申請」することが出来ます。申請に関する期日の条件を次に説明します。

A 新年度からMナン・グリーンナーの年令グループに参加出来る資格を得た人は一九六八年八月三十一日までに「資格と条件」を充たすと申請が出来る。

B 新年度の始まる前に既にまる二年間、Mメン・グリーンナーの年令グループに属し、過去二年間のMIAの記録(個人の活動記録を含めて)が教会内に保存されているか、支部MIA会長会以上の役員により明らかに記憶されている場合は、一九六六年八月三十一日までの一年間の記録と合算され、三年間の記録として認められる。

C 一九六六年八月三十一日までに満三十才の誕生日を迎えてしまう人は、例外として一九六六年二月二十八日までの半年間に、過去二年半の記録（Bと同じように記録または記憶が保存されている場合）と合算し、「受賞資格」を充足し、一九六六年三月一日以降に申請することが出来る。勿論、この半年間のうちに誕生日を迎えてしまう人は対象から外される。

2 ガールズ・プログラム このガールズ・プログラムと云うのは、アロン神権を有する少年たちに対応する姉妹たちのためのプログラムである。少女たちが教会に対する親密感と信頼感を増すと共に、成人としての立派な姉妹になるために必要な援助をするプログラムである。そして既にあるYW M I A プログラムに更に付け加えられるもので、地方部長、支部長の責任の下に運営されます。新年度の一年間はテスト期間としてプログラムを遂行致しますので、指示はその都度地方部を通じ、各支部に伝達致します。（ガールズ・プログラムの説明書を近日中に発行します。）

3 M I A 記録簿の作成 今まで過去数年間、使用されていた「M I A 記録簿」は現在のM I A 活動の記録には不十分であり、現状に即していないので絶版となりました。新しい記録簿が伝道本部に用意されておりますので「M I A 記録簿」と朱書して申し込んで下さい。（定価は一冊150円の予定です）

4 M I A 月間レポートの作成 月間レポートの記録方法が変更しましたので新しいレポート用紙を既に各支部に送付済みですが、今後、この新しいレポート用紙を使用して下さい。本伝道部のM I A 活動状況を正確に記録し「M I A 本部」に報告するために、必ず期限内に「M I A 事務局」へ送って下さい。（この記録がス

テーク部、ワード部になる一つの参考資料となります）

5 その他

A ユース・コンファレンス（若人の集い） 過去二年間、京浜地区で開催されましたが、今年は「ハワイ神殿訪問計画」があるため中止致します。来年はまた第三回「若人の集い」を行う予定です。詳細は未定。

B LDS バッジ 伝道部M I A 事務局では「若人の集い」の資金源のために「LDS バッジ」を續いて販売致しております。どうぞ、支部長会またはM I A の役員を通じて購入して下さい。C 質問 M I A に関する個人的な質問はなるべく支部M I A 役員に伺って下さい。また、支部及び地方部のM I A で創作したミュージカル、演劇その他の新しい脚本を上演する時には、予め伝道部M I A 管理会長の許可を受けて下さい。尚、特別に「伝道部M I A 事務局」に質問を寄せられる場合、月間レポートか質問かの区別を明示して下さい。

告

一九六五—六六年のテキスト

M メン・グリーナー 「素晴しき考え」 (二百円)

エンサイン・ローレル 「我らは奉仕する」 (百五十円)

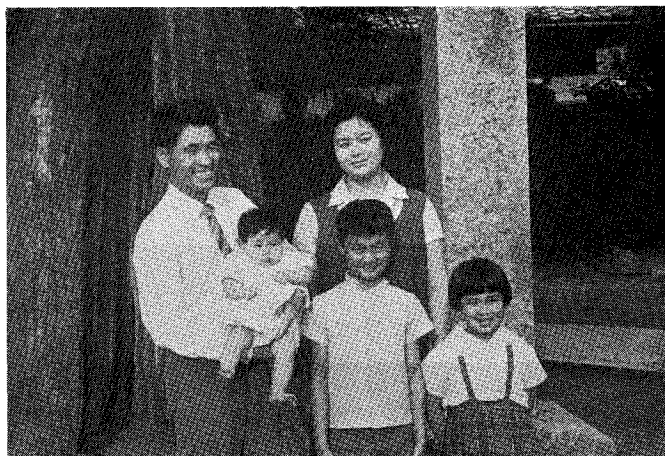
申込みは伝道本部へ

なおM I A についての問いあわせは

伝道部M I A 事務局（東京都練馬区春日町一—二六—一〇）

佐藤襄二・栄子あて（電）992 八八五六

長女 恵美子
長男 茂 生
妻 敏 子
次女 裕美子
私 忠 夫



— (写真 は 右 から) —

真心からの祈り

林 忠 夫 (柳井支部)

今を去る十三年昔、夜おそくまで勤務をした関係でお昼前まで寝ていました。ふと眼を覚ますと、余りにもいい天気なので縁側に出てねまぎ姿のままついうつらうつらしてしまいました。「ゴメンクダサイ」聞きなれない声でした「今日は、私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師です」私はびっくりしました。外人二人しかも立派な日本語で話されました。宣教師は、集会のパンフレットと「是非出席して下さい。」と言われました。私は「暇を見つけてお伺いします」と言いました。私はその頃宗教について少し興味をもっていました。それは、人生の中に宗教は欠くことの出来ないものだと言書により知っていたからです。私はこれは面白いところかも知れない一度訪問してみようと思い、集会場の玄関に立ち「今晚は」と、言うと言教師が障子から長い首と顔だけ出して「よくいらっしゃいましたどうぞ」何気なしに入って行くと、びっくりしました。思わず顔が赤くなっていたのを覚えました。それもそのはず若い美しい女性ばかりがずらりと(当時私は独身でしたから)帰えろうかと思いました。しかし折角来たのだから勇気を出してお話を聞くことにしました。神様についてでした。余りよくわかりません。次の集会も同じでした。興味も薄らいで来ました。其の後二カ月位出席しませんでした、何故か集会日になると心の空白さとい沫の淋しさを感じ、

再び集会に出席するようになりました。その内だんだんと話がわかるようになり面白味もわいてくるし興味も一段と加わって来ました。一つ神様について自分の心に強く感じ取ることが出来るまで研究して見ようと思い、復習をし、予習をしていろいろと難しい質問や愚問を宣教師にぶちまけて尋ねたものでした。宣教師は心よく親切に丁寧に聖句を引用して説明してくださり遂に私はこれが神様だ。これが自分が一生懸命求めていた神だと、心から強く感動を覚えることが出来ました。それは福音の勉強の中にお祈りをすることを悟ったからです。私たちの生活には祈り程大切なものはなく神との結びつきをいつも続けることの出来る唯一の方法です。私がまだ若き時代、ある姉妹（現在の妻）に対して自分の気持をうちあけ彼女の気持を知りたいと決心した時ほど真実心から祈ったことはありませんでした。いつも祈りの中に私は神の御心のままになし給えと言うことを忘れませんでした。その祈りの答がたとえ姉妹にいい人がいたにせよ、私に対する特別な気持がなかったにせよ、私は神の御心ならばいさぎよくそれに従ひたすら彼女の幸福を祈る決心までしていました。しかし幸いにもこうして二人は結ばれ今日三人の子供に恵まれ、良き母親として、また支部長と言う大役を果たすための縁の下の方持ちとして働いてくれることを心から感謝しております。私の家族もこれといって大病もせず健康をもって今日まで幸福

な生活を営むことが出来、神のお守りをひたすら感謝している次第です。今度はまた神様の御恵みによりまして、ハワイ神殿訪問計画に参加させて戴くことが出来、それによって永遠の結婚はもとより、一番嬉しいことは、三年前数時間の現世における生を受けなくなっていた二男とも結び固められ、来世では私等と共に一つの家族の中に加えられる楽しい家庭が永遠に続けられることが出来ることを思うと、ほんとうにこの教会に導かれたことを今更のよう感謝せずにはいられません。

私は精神誠意真心からへりくだった気持でお祈りを捧げる時、必ず神は良き祝福の答をお与えくださることを心から証詞いたします。それは神は生きておいでになるからです。神は完全なお方であらせられるからです。これ等全て主の御名により証詞いたします。アーメン



教えるために召されることがの意義

——北海道地方部の活動の一断片より——

「わが教会の組織の中で働らいている諸君よ、あなたがたが子供たち、若い人たちにまたおなじ年ごろの人たちに、回復された福音を教えるために召されることがどんなにたいせつなことか御存じか」

大管長デビッド・O・マッケイ

(聖徒の道一九六三年一月号より)

誕生ノノノ

霊の子供が、あの偉大な、永遠の進歩の計画を遂行

するための厳粛な第一段階。

あなたも私も、このように地球に肉体をうけてやって来た。

英知として、神の霊

の子として神の慈愛の眼ざしに見守られて。

殖生の宿も、茅ぶきの掘立小屋も、豪華な邸宅も、この時、あなたにとって、どんな意味があったのだろうか。

あなたが、外気に触れて、ぶると震えたのでさえ、決してそれは、栄耀栄華のないことや、この世の汚濁によってではなかった。

あなたが、パパとママの手にしっかりとかまいった時、あなたは感じなかっただろうか、今、あなたの永遠の進歩の計画が、確固として始まったのだということ。

指導者というあなたよ。

あなたは、御存知か。

この動物的な、うごめくものが、神に像ら

れた人間であるということ。

あなたは御存知か。

このたより気のない肉の小さなかたまりが自由意志をもった独立した存在者であるということを。

指導者とい

うあなたよ

このいとけ

ない小さな

者に

無限の可能

性がひそん

でいること

を。

あなたは御

存知か。

見るがよい

まだ不安気

に 天父なる神を仰ぎ見て

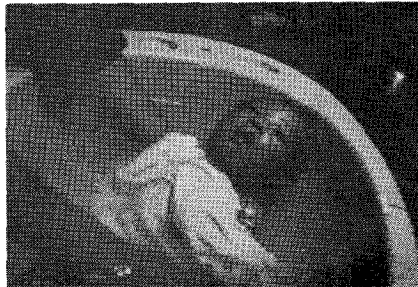
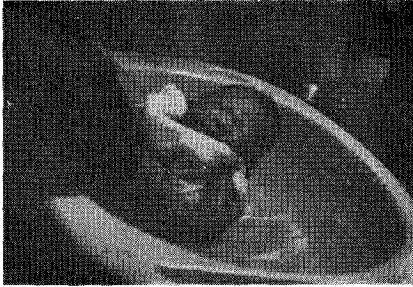
静かにすぐ前までいた

霊の世界を必死に思い起そうと

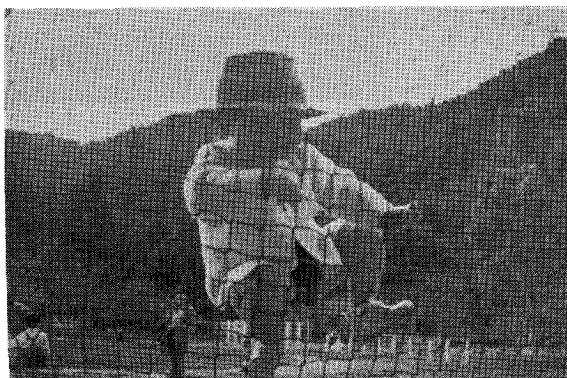
している。このつぶらなひとみを。

あなたは、この子をどのように

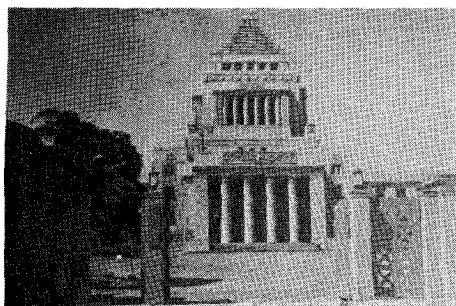
育てようとするのか。



あなたは、どのように指導するつもりなのか。
さあ、襟を正して、考えてみよう。
必死になってそのための知識を得よう。
知識——それは決して塩小さじ一杯
味の素一杯半で味がよくなるというもの
ではない。
働らこう、そして折ろう！



政治をどう考えたらよいのだろう。
人々の幸福の追求が、追求のみに疲弊して、
不信や諦念という負数の感情が、政治に対し
てないかどうか。
あなたの政策は、指導者よ、あなたよ、
この世間のあの政治と同じものなのかどうか
キリストの教えと教会の管理制度は、
世の権力構造とどう違うのか。それによって
威風あたりを払うような国会議事堂が、教会
堂と結び付きはしないかどうか。指導者よ、
考えようではないか。



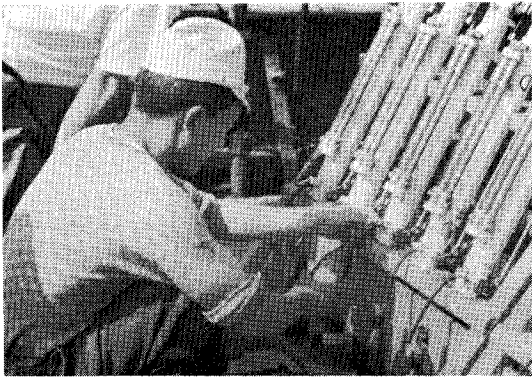
革命！
戦争ノ民族の独立を闘いとれ！
血が飢えたように叫んでいる
ような、現代——
あの清らかなみどりごが、こうした
思想にとらわれていないだろうか。
そして血を流し合っていないだろうか。
ああ、もうがまんができない。
指導者よ。若い人々を守ろうではないか。
都会の喧騒の中で
青春という美名のもてで



青春でない暴挙が
灰色のうすよごれた
人生の挽歌を
響かせている。それはまさしく死に至る。
あなたは大群衆の中の
無力な一人なのか。
違う／＼絶対違う。
もう一度言おう
あなたには無限の可能性がある。
科学も



文学も
あなたを待っている。
それは決して宗教
と背反しているものでは
ない。
真の学問と真の宗教は
常に一致している。
そして人々を幸福に
している。



厳しい自然もあなたの鋤を待っている。
そして人生——これほど厳しいものはない。
指導者というあなたよ。
あなたの周囲の人々が疲れているのなら
あなたは、公式論をふりかざすのではなく
心から、その人を抱きとめているのだからか
しっかりと、暖かく、主イエス・キリスト
のように
疲れている人、自分がわからなくなっている
人に対する特効薬——それは此言でも、義務
的な機械的な神権の力でもない「愛」である。



我々は知っている。今、日本の真の教会の指導者が、試験に会っているのを。お互いに理解し合えないもどかしさを感じているのも。それでもなおかつ、ともに力を合わせて福音を宣べ伝え神の王国を大きくしようとしていることを。

あるパートタイム宣教師の感想。それは、レポート用紙の端に書かれることが多いが、端に書かれたわずかのラインが、極めて大事なことであつたりする。

○支部が落ち着いたら、きつとあの求道者ももう一度出席してくれると思います。

○英会話のクラスできます。今日はそのためのビラ配りです。

○私たちは、本当に恵まれ、今月中に二人の改宗者を出せそうです。その一人はいったん教会を離れそうになった人ですので、私たちの喜びは口に言い現わせないほどです。彼女はバプテスマを受けれるように今職を求めています。その努力を見て本当に心からの喜びで一杯です。

○この一年を通して私の感じた伝道生活は本当に喜びでいっぱいです。もともとこの伝道が多くの人々によってなされることを心から祈っております。そうして神様がこの期間を通じて改宗された方を祝福されますように心より祈っております。

(いずれも原文のまま)

日曜学校の教師のレポートの中から得られたものに、次のような内容のものがある。

私の好きな教師像

一、技術面

小樽支部 中川京子

1 深い知識と理解……教課に対して可能な限り完璧に近い学力をもたない教師は失格。まず専門家であること、デキル先生であることなにより教える前に自ら学ぶ先生。明確で、充実している授業、ものをいう実力は、まことに快よく信頼感を与えられる。

2 熟練……いくら手がけたかの慣れではない。よりよく教えるためのサビス精神。生徒が吸収しやすいよう、生の知識ではなく自分の頭を(時にハートで)通してのみ語る人。教場に出てよかった。

トクをしたと思わせる教師。また興味をおこさせるため、生徒を授業に参加させる配慮と計画性。一人々々の個性(個人差)や状態に気づく余裕(愛情)をもつ先生。

3 オリジナリティ……テキスト通りのきまりきった授業は単調で、死ぬほど退屈。この先生の授業はなんていいんだろう、独特なんだろうとうっとりさせる引力ある教師。個性的であること、視野が広いことの限らない魅力。

4 ユーモア……駄洒落や、単なるおしゃべりに堕した雑誌のたぐいはまったく不可。ユーモアのある先生は、きわめて高度なスマートなテクニシャンであるが、しかもユーモアとは、まず意識計算されない全人的能力である。ユーモアのわきびのきかぬ先生は、窓のない家のようにうつとうい。

二、人格面

1 強烈な個性……一対一で話したい(これこそ会話である)という熱望をわきおこさせる先生。そして敬愛の念は、先生がいかに生きいかに学んでいるかにかかっている。なによりユニークであること。そして、よしんば偏っていても本物であること。私はとくにクセのあるもの、強いもの、烈しいものに感きつけられ、影響をうけ

た。

2 弾力性……石あたま、精神的ケチ病はうんざり、小利口な俗物性は軽蔑。常に学び考え、その視野を広めている教師。このような人は知識を教えこむだけではなく、その背後のもっと本質的なものにまでふれることの出来る先生である。

3 愛情、熱意、誠意……先生が自分らに、特に自分に無関心ではないということ的印象づけられる時の喜び。先生のあたたかさ、やさしさ、熱心さの及ぼすイミは大きい。教育の場を支え、知識をほんとうにしみこませ得るものは愛情である。

教えるとはどういうことなのだろうか。我々は、ともすれば、このことに目をつぶって無関心を装いがちではあるまいか。

あやまった行動主義や教養主義の極端な状態が、教えることの真の意義を曖昧にはいてまいいか。指導者という名称の真の意義が、偏見や誤謬から正しく守られているであろうか。

「ヨハネの子シモンよ、あなたはこれらのものを愛する以上に、私を愛するか」

「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存知です。」

「わたしの小羊を養いなさい。」

(欽定訳ヨハネ伝二十一〇十五参照)

マッケイ大管長は述べておられる。

「私と同じわざにいそしむ教師の方たちよ。あなたがたの心から愛の光をかがやかせなさい。そうすれば、あなたがたは真理の種子

をまくよい土をもつのである。この真理の種子はこの世の生活で実をむすび、それはいつに不死不滅と永遠の生命を人に与えるにちがいない。これはまことに神の栄光であって、それをわれわれに、自らの力によって得させたもうよう神に祈りたてまつる。」

編集後記

○各支部からの夏だよりが届くころとなりました。愛読者のみなさまお元気のことと思います。毎月「聖徒の道」を手になれてのご感想はいかがですか。いろいろ提案、カット、写真などの投稿をお待ちしています。

○いま伝道部全体がハワイ神殿訪問計画でたいへん忙しい毎日のようである。百数十名の忠実な聖徒が神殿から帰って、すばらしい信仰生活を通じて日本に一日も早くシオン建設の日のくるのを心から期待しましょう。

○聖徒の道の個人発送に協力して下さい。七月号「聖徒の道」でお知らせしましたように支部発送から個人発送にする方針です。愛読者のみなさま予約をして下さい。すでに三十名余の注文をされた支部があります。これも委員の方々やみなさまの協力があからと思います。

「聖徒の道」はあなたの生活の道しるべ

— 松 浦 —

部長会が新しく組織されました

6月13日東中央地方部では、仙台、新潟、甲府、東京の四つの会場に分れて地区大会が開かれた。各地から集った会員たちが多くの証詞を得て、今モルモンであることの喜びを知ったとき、今井地方部長のもとに組織されていた地方部長会が解任され、その意志と勇気を受けつぐべく新しい地方部長会が紹介され参加者全員の指示を受けた。

ここで新しい地方部長会の紹介と、当面の活動計画などを特集してみた。

みなさんどうぞよろしく

数々の業績を残された前今井地方部長は伝道部日曜学校会長に、前第二副地方部長小室兄弟は東京中央支部支部長にそれぞれ聖任された。これから東中央地方部を指導される新しい地方部長会は次の四人の兄弟たちである。

地方部長

田中健治兄弟

第一副地方部長

丸山周兵兄弟

第二副地方部長

柏倉仁兄弟

書記

平野勝也兄弟

そこでこの四人の兄弟たちに二・三の質問を試みてみよう。

田中健治地方部長

(前東中央地方部第一副地方部長)

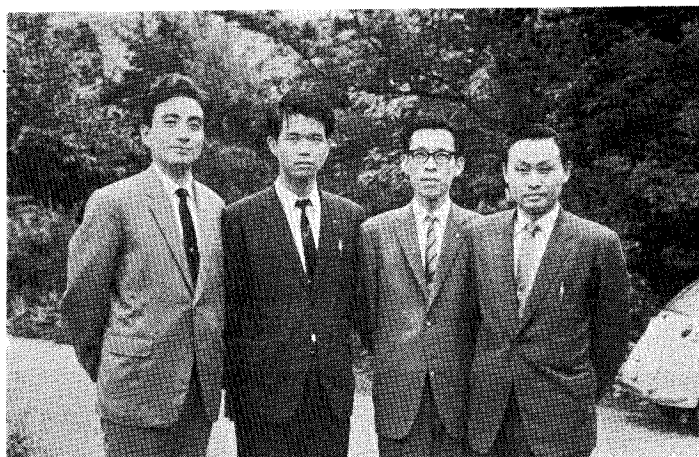
——田中兄弟のことはもう全国津々浦々知らない人はないというくらい、その模範的なモルモンとして有名なんですが、(聖徒の道三月号参照) いかがですか、最近の生活ぶりは。

以前から忙しいという点においては、ある程度飽和状態になっていますので、そんなに変化はありませんが、このところ地方部長会としての勉強で追われている。先日などは地方部長会全員で合宿

をしましたくらいです。私の家庭についても同じですが、近々のうちに地方部長会のすべての家族の方にご了解をいただかなければと考えているしだいです。毎夜毎夜御主人のお帰りがおそくなるのですからね。

——ところでこれからの活動計画などは別にお伺いすることにして、これからの指導者に何を望まれますか、ひと言どうぞ。

指導者であるためには、無論信仰上しっかりした方であらねばなりません、これからは、教会だけでなく、学校でも



左から
田中兄弟
柏倉兄弟
平野兄弟
丸山兄弟

丸山周兵第一副地方部長

（前東京中央支部支部長）

——兄弟は支部長として五年間の経験があり、その他系図関係の責任が多かったようにお聞きしているのですが、ご感想をお聞かせください。

正直いっていまでも、びっくりしています。私は過去に大変恵まれた経験がありまして、前地方部長の今井兄弟にアロン神権執事の職に按手され、また田中現地方部長には祭司の職に按手されました。そんなことで私はこの地方部長会とは、ほんとうに深いつながりがあるような気がしているわけです。田中地方部長のよきパートナーとなつてがんばりたいと思っています。

——ご家族とお仕事のことについてふれていただけますか。

澄江姉妹と一九五九年に結婚しまして現在和子、周三という一男一女の父親で

す。また仕事はアンドリウス商会に勤務しています。（編者注、田中地方部長同様会社に於ても有能な人材として重要な役職につかれています）

柏倉仁第二副地方部長

（前第五長老定員会第一副会長）

——兄弟は最近まであまり地方部とは関連のない責任にあつたわけですが、いまどんなことをお考えですか。

長老定員会といつても地方部と全然関係ないことないですし、それに、よい指導者が私を導いてくださいますので、今は安心して地方部の勉強を続行中です。

——現在横浜支部所属ですが、バプテスマは室蘭支部ですか。

一九六〇年にバプテスマを受けて、室蘭支部の会員でいたわけですが、学校を終えて、横浜の三機工業に入社しましたものですから、こちらの支部に移り、現在までに、アロン神権主事や、支部長会の責任を経験してきました。

——最近ご結婚されたそうですが、いかがですか新婚生活は

このところ毎日のように地方部長会が

続いて忙しいことは忙しいですが、姉妹が本当によく援助してくれますから、大変助かります。(編集者注、朝子姉妹は来年早々出産の予定だそうです)

平野勝也書記

(地方部書記)

——バプテスマを受けられたのはいつですか。

——一九六三年の四月で、現在西支部に所属しています。

——兄弟のお勤めは西武百貨店でしたねいろいろとお忙しいんじゃないですか
仕事の性質上忙しいにはちがいますが、せんが、会社の人たちの理解をいただいて教会活動を円滑に進めたいと思っています。(注)彼が会社で好かれているかどうか、電話するとよくわかるそうです)

——最後に最近の生活を

ジャンセン姉妹との神殿結婚もまじかにひかえて、幸福いっぱいというところですが、心をひきしめて勉強しています。

指導者養成プログラム

指導者養成カレンダー7月 指導者養成プログラム

日	安息日	6月		地方部長会
月	家庭の夕	7月		評議員会
火	地方部評議員会	8月		地方部役員
水	訪問長老定員会	9月		支部長会
木	MIA	10月		ホームティー チング組織
金	地方部評議員会	11月		支部役員
土	地方部長会	12月		組織相互関連 協力プログラム

地方部長会は二晩半

新しく組織された地方部長会は、その地方部のテーマに「教義と聖約」第百二十一章三十節から四十六節までを選び、第一の方針として「良い指導者を養成する」ことをあげている。そのために地方部長会は毎週定例集会以外に二晩半、地方部評議員は二晩、地方部委員は一晩をトレーニングのための時間として持つことができるように、またそのためにつねに家庭を大切にするようにと指示があった。良い指導者を養成するためには、まず自らが良い指導者となり、具体的に模範を示すことがいちばん効果ある方法だと教えられている。

札幌支部

今年も札幌の街にライラックが咲き、アカシヤも白い花をつけました。

季節のいろどりはいつも変らず姿をかえて私たちの目の前を通り過ぎて行きますが、この数カ月の間に私たちは非常に大きな経験をしました。未だ残雪消えやらぬ三月三十日(火)未明、札幌支部の建物はその大半を焼



失するという不慮の災害に見舞われました。

この火災により、昨半夏会員の奉仕と協力によって増築された礼拝堂は全焼し、かろうじて事務室、浸

礼室の一部、キッチン、昨年夏増築した二つの教室の

みが焼け残りました。幸いなことに事務室と教室が猛火を免れたため、支部記録の一切と図書が全く無事で一同感謝しております。また漫礼室の戸棚にあった扶助協会の食器類、ミシンも助かり、二台のオルガンは修理すれば使える状態でした。

真夜中の出火でしたが、第一発見者の宮本姉妹、金沢姉妹らによって支部長会、地方部長会の役員に伝えられ、午前四時頃迄には支

部と地方部の指導者たちが集まり、さっそく柳沢地方部長から伝道部長に報告されました。明け方「モルモン教会焼ける」の報道を聞き兄弟姉妹たちは急いでかけつけました。が、姉妹たちは変り果てた建物を見て、余りの出来ごとに泣きながら集まって来ました。兄弟たちは同じ気持を抑えて「なにこの位大したことはない」「力を落さないで」と励ましたり、慰めたりするのがやっとでした。それでも宣教師始め誰にも怪我はなく、また近所に災いを及ぼさなかったことは非常に幸いでした。

お昼近くには早くも伝道部長が飛行機で来られ、今後の対策と指針を与えて下さいました。また道内各支部をはじめ、東京北支部、仙台支部など全国各地の兄弟姉妹から暖かい援助の手が伸べられ、私たちはこのように愛する同胞を持っているということ、どんなに心強く感じたかわかりません。皆様にこの紙上をお借りして心から感謝申し上げます。

聖典の中にも、いつ主のむちが私たちの上に下るかわからないと、言われていますが私たちは各々がけんそんさを失っていないか、静かに反省する機会をもつことが出来ました。しかし、さすがは全てを善しと受け入

れるモルモンの民だけあって、指導者のもとに直ぐ立ち上がりその日から焼け跡の整理、支部の再建のため動きはじめました。

非常に多くの人が、このために集い、建物も失つても、これらの信仰強い兄弟姉妹がいる限り大丈夫だという感を強くなりました。火災後五日目に、桑園福祉会館で開かれた、聖さん証詞会においても兄弟姉妹の以前にもまして強い証詞と確信が述べられ、その感じを一層強くした次第です。

これまで札幌支部の会員は自分自身の建物を持ち、何不自由なくすべての集会をもつことが出来ました。殆んどの会員は間借生活の経験をしていません。今度はじめて古い会員たちが経験したように、いろいろな集会場に集い建物の重要さを悟ることが出来ました。このような困難の中にも私たちに希望を抱かせるものは札幌の比叡山といわれる海拔五〇〇米の秀峰藻岩山のもと、ロープウェイ入口近くに購入した一〇〇〇坪の土地に北海道地方部のセンターとして建てられる、新しい教会堂のことでした。

五月十八日（火）午後五時から、アンダーセン伝道部長、建築総監督チニー長老、横山、村上両建築宣教師を迎え、支部会員約百

名が集い、聖地にハレルヤの歌声が高くひびき、鉄入れ式が挙行され、建築の基礎が置かれました。現在二名の宣教師がすでに開始しており、支部でも特に、水土の二日を建築日と定め着々と進められています。やがて札幌全市から望むことが出来るこの藻岩山麓に教会の位置を示す白いタワーがそびえる日もそう遠くはありません。

それでは喜ばしいニュースを二つばかりお伝えしてお別れ致します。

小樽支部から移って来られた佐々木雅啓兄弟と高橋周子姉妹の結婚式が六月十二日（土）北専会館で挙行され、またモルモンカップルがひとつ増えました。

今まで長い間私たちの教会堂として使われ愛着のある円山の焼け跡に再び建物が建てられることになりすでに着手されています。

ともかく火事による損失よりも更に大きなものを私たちは得たと確信しております。それでは紙数もつきたので次回に集会の様子など詳しくお知らせ致します。
（倉見光男兄弟）
皆さんお元気で。

京都支部

○梅雨に入って毎日がむし暑くじめじめした

今日今頃ですが、皆様お元気ですか？ 京都支部発展のため、貢献して下さったとても歌の上手なスミス長老が帰国され、その後任にブラック長老が見えて新しい気風で頑張っております。また私たちの庭には神権者の手によって植えられた。うり、じゃがいも、きゅうり、が芽を出し、葉が付きその成長もすばらしく、会員一同楽しみにしています。そして食事会やキャンプファイヤの時の食卓に現われるのも間近なことと心待ちにしています。

○七月は京都支部からも神殿へ二組のカップルがにかけて先祖のための救いやシーリングがハワイにおいて行なわれますが、当の二組よりも、むしろ若くてまだ未定？ の兄弟姉妹の方が今から不安がったり、わくわくしたり！！ 次回の神殿行きには是非と大いに期待しています。

○六月十三日の五時半から恒例のファイヤサイドが開かれました。讚美歌のしりとりに戦をやったり、また各々の好きな曲を選択しその中に書かれてある意味、あるいは思い出話をしました。またある兄弟が初めての家庭集会に遅れて、すぐには宣教師の家に入れてもらえず一時間程過ぎてやっと開会を始める

ことが出来ました。そしてその時に歌った讃美歌を皆で合唱したり、大変楽しく有意義なひとときを過しました。

○五月のバプテスマ 池田清樹兄弟

○神権昇進者 金山貴雄兄弟

執事 的場好子姉妹

名古屋支部

全国の兄弟姉妹の皆さんお元気ですか？

今度から名古屋支部だよりを鶴岡姉妹と私、北川姉妹とで書くことになりましたので、こんなこともよろしく願います。

まずは宣教師移動から。

子供好きで有名であったグリーン長老が、岡町支部へ転動されましたので後任としてナルアイ長老が就任されました。ウシオ長老が仙台支部へ、マルニクス長老が旭川支部へ、それぞれ転動されましたので新しくアメリカよりバンク長老、エンピィ長老が就任されました。

さる五月十一日昭和高校体育館においてアロン神権者と、昭和高校バスケットボールクラブとバスケットの練習試合が行なわれ、わが誇るモルモンチームは長老四人を筆頭にバスケットの得意な神権者たちが集まりまし

た。前半は見てもほれするような素晴らしいシュートで順調に勝っていました。(多分に長老たちのおかげでしょうね)しかし後半、前半のつかれがでて38対22でおしくも負けてしまいました。でも負けたからといって悲感しないで下さいね、とっても良い試合でしたから。

六月五日土曜日二時半より、タヌサカ長老と上田姉妹の結婚式が名古屋支部二階ホールで挙行されました。残念ながら写真をみせることが出来ませんが、お二人の幸福そうな様子は全国の兄弟姉妹の皆さんにもわかっていただけたと思います。私たち一同彼らが末長く幸福にすごすことが出来るよう、また模範的なモルモンの家庭としての使命をはたされるよう心より願います。

六月二十日は皆さん御存知のようにメルケゼデク神権の回復記念日、この日名古屋支部では聖さん式に神権の回復記念にあたって、日坂繁兄弟から息子としての立場からのお話、中野姉妹から姉妹としての立場からのお話、古芝兄弟から父親としての立場からのお話があり、会員一同ここに新めて神権というもの必要性、重要性を知ることが出来ました。八月のMIAはどこの支部でも毎週楽し

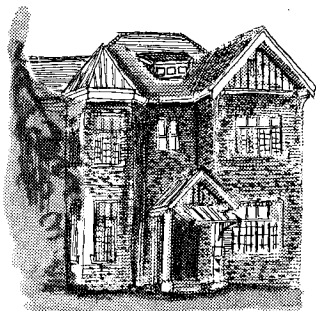
い催し物でいっぱいだと思いますので各支部の皆さんも今からはりきっておられることと思います。名古屋支部でも今から楽しみに胸ふくらんでいます。

ではまたこの次の支部だよりまで

さようなら

お 詫 び

京浜地区大会の原稿はページの都合上割愛させて頂きました。関係者にお詫びいたします。



——系図協会からの便り——

国島姉妹へ

御手紙拝見致しました。熱心に系図の御仕事をしておられ、御様子、遠くにいても手に取るようにわかります。そして心強く思えます。

こちらから送り返されました平山兄弟のシートについての御質問にお答え致します。

こちらですべて事務上の手続きが終了すると裏面に、コントロール・カード、と呼ばれるカードを付けまして、提出者に返されます。

そのカードには何名の神殿の儀式がどの神殿で行なわれるかということが記入されています。ですから提出者はこのコントロールカードの付いたシートを系図協会本部より送り返され、それを受けとって始めて自分の先祖たちの氏名がもう神殿に送られ、誰がどの神殿で儀式を受けようとしているかがわかるわけです。

また、送り返されますシートには、いろいろな赤や緑の記号が入っています。

それらの記号は系図協会本部に働いている人々の記号でありまして、ほかのところでは

使われておりませんし、使うべきでもありません。しかしここに少しこの記号についての説明を致しましょう。

赤C記号Ⅱこの記号の記入してある氏名の人には、もうすでに儀式を受けるために氏名を神殿に送ったという意味です。

赤T記号Ⅱこの記号の記入してある氏名の人には、もうすでに儀式をうけるために代名を神殿に送ったけれどもまだ儀式をすべて完全に受けてはいないであろうと思われる人という意味です。

緑L記号Ⅱこの記号の記入してある氏名の人には、現存の人でそのため死者のために行なわれる神殿の儀式は勿論受けることは出来ません。しかし死亡した場合にはもう一度ファミリーグループシートを提出することによって儀式を受けることが出来ます。しかし死亡年月日をどうしても見つけることの出来ない場合は、その人の生年月日より百十年たつてはじめて儀式を行なうことが出来ます。そのように長い間まつことのないよう、正確な死亡年月を努力してさがす必要があります。

※又は☆記号Ⅱこの記号の記入してある氏名の人には、このシート以外のファミリーゲ

ループシートにも氏名が出てくる人という意味です。

日本から送られました系図はもうすでに事務上の手続きが終了しまして、多数ハイ神殿に送られました。ですからこのコントロールカード付きのシートはこれからも提出者に返されます。でこの意味をよく理解して下さいまして、それらのシートを受けとり、自分の先祖の誰が何処の神殿でバプテスマ・エンダウメント・シーリング等の儀式をうけて永遠の生命への道を歩むのかを理解していただきたいと思ひます。

私達も日本の一人でも多くの会員が、またその先祖たちが神殿の儀式を受けられるよう心から望んでいます。大きな恵みがありハワイ神殿行きが完全に成功するよう心から祈っております。

南城洗子

二伸

赤E記号Ⅱこの記号のついている氏名の人には、もうすでにバプテスマの儀式を受けたいという意味です。

失われた子は見出された

ジョン・G・キンナー

——実話名は仮名——



七才のトムはふるえている弟の手をやさしくとって長い廊下を静かに面会所の方に進んで行きました。

戸がぎゅっと開くと髪をもじやもじやさせ、背をかがめ、年よりもふけた顔の男が立って不安そうに二人の少年、彼の子供をのぞき見ました。彼の呼吸はまだアルコールの息気に重苦しうでした。恥ずかしそうに近寄って行く時に兄の方はいつものいやな息気に胸が悪くなっていました。血走った眼で父親はうす明りを通してじろっと見つめました。

トムはびくびくしながら挨拶しました。彼に前の生活に戻ること恐れましたがそれでも心の中ではお父さんがこの家から連れ出す為に来てくれるように望んでいたのです。

彼はかつて住んだことのある小さな可愛らしい家を感じておりました。彼はお父さんが綿畑やその他の所で仕事を探さなければならなくなつた時家族と一緒にその家を去つたことを覚えていました。彼の父はかつて大きな薬屋を持っており、倶楽部の会長をつとめ登録された薬剤師として皆から尊敬されておりました。彼自身の棚にある薬によつて彼は墮落したのでした。家族は生活の為に放浪せねばならなくなりました。父親の稼ぐことの出来た金はほとんど狂わんばかりに求める中毒した薬に費されてしまいました。

最初トムとマークはお母さんがお父さんと共に放浪生活を続けねばならなかった時、友だちの家に預けられました。彼女は夫が酔つたり麻薬を飲んだ時はいつも打たれました。苦しい彼女の生活はほんの短い間でした。彼女はトムが六才の時死にました。

少年の家に来る前の六ヶ月間は子供たちにとって何と言つても家庭的な生活でありました。或酒場からよろめきながら出て来たお父

さんをマークと一緒に手を引いて帰ったこともありましたが。そしてそこに彼らが家と呼ぶ見すばらしいアパートの部屋があったのです。そしてそこにはやさしい愛の親しさを感じる貴重な一時があったのです。そして坊やと呼ばれ暖かく抱かれたことが思い出されるのでした。

父親はかがんで二人をしつかりと抱きしめました。トムはぼろぼろになった父親の上衣に頬をすりつけました。

「坊やたちのお父さんはもう遠くに行ってしまうんだよ、お前たちはもうお父さんを見れなくなるんだ。」

彼の声は重苦しく響きました。トムは自分の耳を疑いました。彼はお父さんの手がゆるむを感じた時とつがりつこうとししました。お前たちはもうお父さんを見れなくなるんだ、気絶しそうなトムの脳裏に山彦のように繰り返して響いて来ました。彼は父親が、ゆっくりと戸の方に歩いて黙って出て行くのを呆然と見つめていました。

トムの前途は実にいばらの道でした。又空虚な孤独な道でもありました。州の役人はトムと弟を連れて何ヶ月もあちらこちらの家を訪ね歩きましたが遂にカリフォルニアの一番

大きな孤児院に預けました。第二次世界大戦中で道徳は全般的にすたれ家族の分裂が一般化しました。

その後数年間にトムは学ぶべからざることを選びました。そこは多くの国の少年感化院で何処でも見られるようなほとんどすべての状態のある環境でありました。夜になると彼は年長の少年たちと孤児院の外に出て物を盗み道路に待伏せてギャングを働らき店に押入って彼らの為にアルコールを盗むなどあらゆる悪の活動をしました。

彼は反抗的となり仲間の中に認められるようになろうとしました。その仲間は彼の急速に成長して来た、適者生存の哲学に迫車をかけました。彼は既に言語障害となり自分の氏名すらどもらずには言えなくなりました。

十五才になる迄の孤児院と少年感化院でのトムの生活はすっかりろくでなしになってしまいました。彼は管理者に反抗し浮浪児の鬨争の世界に成長しました。管理者の規律は体刑を意味し彼はそれにひるめば更にギャングから悩まされることをすぐ知りました。トムの弟は彼が問題を起した時、いつも彼の為に尽しました。たまにはマークも問題を起しましたがそれは小さなものでありました。トム

の孤児院の生活は彼が院長さんを打って追放されたことよってあっけなく終ってしまいました。彼は年長者に打たれて奮然としておどろかり打返したのでありました。

州の役人はトムの問題をどのように解決したらよいか困ってしまいました。彼は児童福祉委員会の外のベンチで待たされていた時の孤独さを覚えております。今弟と離されてしまったことは彼に加えられた多くの不当な処置の又新たな一つでありました。

委員会はトムを矯正院に入れようかと話し合いましたが最後に養家へ送ることに決めました。トムは彼の新しい家庭に非常な期待を持ちました。けれども彼の夢はパッと上った煙草の煙のようにたちまちにして消えてしまいました。彼は委員会が感化院の子供を引受けただお百姓さんに月四十五弗を支払っており、或時にはそのお金が引受人の引受ける動機となっていることを知りました。トムは丁度トム位の子供の労働を必要としている（大人一人分迄はない仕事の量）お百姓さんに養子として引き取られたことを知ってあきれてしまいました。

新しい養家での最初の日にお百姓さんは荒れ果てた納屋の後の古い井戸の家を指して

「ここがお前がこれから寝る所だ」と言いました。それを聞いた時のトムは沈んでしまいました。失望落膽したトムは井戸小屋の生活を始め附近の学校に通い始めました。彼は間もなく浮浪児を探し求め又以前のやくざの生活に戻り遂に又児童福祉委員会の手に戻ってしまいました。お百姓さんは、安い援助でお金を受取ったことは、悪少年の問題を起した価値だけしかなかったことに気がつきました。又次の家庭に送られましたが何処に行っても長く留りませんでした。ほっそりしたそばかす顔の少年に待っているものは問題と拒絶だけでありました。彼が十六才を過ぎた時今迄の養家での失敗の記録は再び彼を矯正院に送ろうと云う相談となりもうほとんど決定するばかりになりました。けれども変更があつてトムはもう一度農家に預けられることになりました。今度は彼の生れ故郷の町でその家庭には彼の弟がもう何年か預けられていました。新しい養家の前途はトムにとってスリルを感じる程でもありませんが又悲しい所でもなく兄弟に逢えたことは彼をすっかり幸福にしました。

彼が、家庭入り、した日は輝かしい日でありました。高い樹の蔭に在る小さな家は彼の

眼に砂漠の中のアアシスのように見えませんでした。彼は福祉委員に、さようなら、をして車から降り近寄つて来る人のもとへゆつくりと歩いて行きました。その人がトムの肩に手をかけて、お前はもう私たちの子供なんだよと言われた時、トムは当惑してしまいました。けれども暖かく親しみのある声でした。トムはこの家の人たちはモルモン教徒であると告げられ、変つた行動はそのためだと感じました。暫くする内にトムはすっかり家族の一員になつてしまいました。彼は毎週、要るだけのお小遣いをもらひ又訪ねて来たお友達や親戚に紹介されるのは彼にとって、始めての経験でありました。彼は学校にキーキの入った弁当を持って行くようになりました。今迄彼がキーキを手にしたのは只他の子供たちのを盗んだ時だけでした。彼のモルモンの養父母たちは彼に学校から学校の図書を家に持つてくるように奨め、辛抱強く彼の勉強を助けました。彼の前に新しい道が開けて来ました。彼はどもりであつた為学校ではみじめで特に彼が友だちとなりたがつた人だちを当惑させました。彼がしゃべろうとする時彼らはいつも彼の眼をさけて下の方を向いて彼の足を見るのでした。けれども彼は勉強しだしてから

だんだんと自信がついて来たのでありまして。

彼の養父母たちの暮らしは決して楽なものではありませんでした。彼らは所有している物をもつて一生懸命に働らかねばなりませんでした。彼らは典型的なモルモンの農夫でありました。その信仰の原則に生きる普通の人でありました。彼らは六十頭の乳牛と小さなこざっぱりした家とそれに必要なだけの土地でありました。彼らはこの家風が養子に迎えた二人の十代の子供にもだんだんとしみ込で行くことを信じました。トムは自分自身の小牛を与えられ、それはその後カリフォルニアの州品評会で二等賞に入りました。所有の誇りと、独立の喜びとがだんだんと少年の胸にわいて来ました。トムは福祉委員から養家の人たちと共に教会に行くように言われておりました。彼は以前に二つの有名なキリスト教会に入り復興集会で二度救われたのでありました。いろいろ異つた教義と、いろいろの宗教的表現の混乱の内にトムは宗教は自分の生活に関係ないと結論しました。けれども彼がこの新しいモルモンの家庭に来て最初の日曜日に彼は又新しい経験をする自分を見出し、ました。彼は教会堂の玄関口で楽しみに語り

合っている教会を訪れた人々の声、暖い握手挨拶、教会堂の中の異様な光景、小さな子供の集会における説教などにびっくりしてしまいました。

けれどもトムは続けて教会に通う内にだんだんと興味がわいて来て彼は養父母に又神権会、日曜学校、MIAの教師にいろいろと質問し始めました。あまりにも多くのことが彼にとって新らしいことでありました。感情と五体を持った神、有りふれたジョセフ・スミスと云う名の神の予言者を通じての充ちたれる福音の回復、今日この若い人に神と救い主がお姿を現わしたこと、神からの直接の権能によって、この地上において神の名をもつて行動する教会の再設、予言者ジョセフ・スミスによって訳され今日モルモン経となっている奇しき金版。これらの教えの或ものとは思議なことに、何だか前から知っていたように感じられ潜在意識の一部をなしているように思われました。彼は彼らが彼を受け入れ、愛してさえるので人々をなつかしむようになりました。彼らの信仰はその生活と行動に反映し、彼がどうしても何らきまり悪そうにせず彼の視線をそらすようなこともしませんでした。彼は根本からだんだんと変って来ま

した。けれども彼はまだいたずらもし学校のを悪童共と交って昔のくせを出したりしました。そして時々旧式の懲罰として養父に納屋に入れられたこともありました。けれども必ずそれに続く一層の愛によって、その罰が理由のないものでないことを知らされました。

家庭内で多くの福音の討論がなされました。家族の人たちは彼に一つ一つ福音の原則を教えて行きました。そして同じ忍耐をもつて学校の勉強を手伝ってやりました。知らぬ間に彼はだんだんと教えられた福音に生活するようになりました。彼の世界は変わりました。彼は福音に対する愛の中に成長するにつれて、人生の意義と美が彼の眼にだんだんと開かれて来ました。何時トムが教会に改宗したか誰も告げられません。それは突然の自覚ではなく、ゆっくりと集約されてバプテスマを受けたという大きな望みとなったのであります。この望みと共に彼はその習慣を変えて良い生活に入り新しい人となる力を得ました。彼はモルモン経の中の約束を読みました。またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖靈

の力によってこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。

彼は予言者ジョセフ・スミスが持っていたと同様の信仰をもつて神にたずね、その心の中にはっきりした証と確信を得ました。それは彼が真理を見出したことを告げました。そしてこの真理が誠に彼を自由にしたのであります。

トムのバプテスマの日は誠に記念すべき日であります。トムにとってそれは決して忘れることの出来ない日であります。支部長が彼にバプテスマを施し養父が按手札を執行して教会の会員に確認しました。彼よりも先にバプテスマを受けたマークはこの儀式の証人となりました。

バプテスマを受けて四日後にトムは、その生涯で最も感動的な発見を経験しました。彼は前から近所に住む彼のお母さんの近親者の訪問を受けておりましたが今度は特に重大な意義があったのであります。彼女は言い置いた「トム、ここにお前のお母さんが死ぬ前に置いて行った少しのものがあります。お前はさつとこれがほしいでしょうね、私はお前が両親のことを知らうとして多くの時間をかけて探し求めているのを知っていますから」

トムは夢中になってその一重ねの紙束をとり
ゆつくりと一枚一枚めくって行きました。突
然彼の眼は一枚の紙片の上に釘付けにされま
した。その上の方に末日聖徒イエス・キリス
ト教会と大きな活字が印刷されておりまし
た。彼は信じられないようにその眼をこすり
ました。それは彼の生れた時の幼児祝福の証
明書であつたのです。彼のお母さんは教会の
会員であつたのであります。トムは周囲も
忘れてそこに泣き崩れてしまつたのでした。
十七年後に彼は彼がほんとに属していたおり
(囲い)の中に戻つて来たのであります。

トムは高校の上級生となる頃には多くの弱
点を克服して新しく見出した人生において新
しい友だちや皆の人氣を得るようになりまし
た。その証拠に彼は応援団長に選ばれ最低の
条件から最高の進歩を遂げた報賞としてカリ
フォルニア大学の奨學資金を受けたのであり
ました。

トムは奨學資金を使わないで朝鮮事變の時
に軍務に服し飛行機から上陸して一時間半後
に最前線に出たのであります。そしてヘヤ
ブレイク・リッジを含む激戦地に参加したの
でありました。彼は最年少の陸軍軍曹として
アメリカ合衆國に帰りました。彼は昨年、東

独(西ベルリン)に勤務して一九五三年六月
十七日の東独謀反の証人となりました。この
軍務の経験をもつて彼は故郷に帰りました。
この時弟のマークは結婚して他州に移つて自
分の家庭を建てていました。数年の内に彼の
家畜は増え、彼はその農業を續けて行こうと
計画しましたが、英國伝道の召しを受けてそ
の計画は変更しました。家畜と車を売つて必
要な資金を準備し、ステーク部の高等評議員
会がその残余を援助しました。だんだんと能
弁となるという聖任の時の約束をもつてトム
はうまず働らき続け、六十人以上改宗の記録
を英國伝道史上に残したのでした。彼の生涯
の禍であつた言語障害はほとんどあとかたも
なく消え去つたのであります。

教会幹部の一人が彼がまだ伝道におる頃、
彼が戻つて来たらアメリカ合衆國の如何なる
大学にでも入れる奨學資金を申し出ました。
けれども彼は軍務後の進學特權を持っていま
したのでこの好意的な申し出でを遠慮したの
であります。

彼は伝道中にその後彼の妻となつた女性に
逢いました。十八才で彼女は全スコットラン
ドの初等協会々長になり又支部の聖歌隊員で
ありMIA、日曜学校の教師も務め同時に初

等協会のお母さんもつとめました。トムが帰
つてから六ヶ月後に彼女はアメリカに来て彼
らはソルト・レークの神殿で結婚しました。

トムの話は尽きません。彼は現在二人の小
さな息子さんに恵まれております。社会学を
専攻してブリガム・ヤング大学を卒業し特に
不良少年の矯正と再生に力を注いでおりま
す。彼はそこでステーク伝道部の副部長をつ
とめました。それから多くの教会の職をつと
め説教し、何処へ行つても彼の人生觀を展開
し、すべての人が見えるように彼の証の光を
高く掲げております。

彼は若人にとつて靈感であり、特にほとん
ど治らないような不良少年たちに靈感を与え
ます。トムは言つております。

。教会の原則は救いの原則であります。それは
實際に救うのです。もしそれが私に教えら
れたように正しく教えられるなら私が理解し
たように彼らは理解するでしょう。正しく理
解すれば彼らは正しく生活するでありまし
う。



ENGLISH
FOR



August



DOWN THE LANES OF AUGUST

Down the lanes of August—and the
bees upon the wing,
All the world's in color now, and all
the song birds sing;
Never reds will redder be, more gold-
en be the gold,
Down the lanes of August, and the
summer getting old.

—Edgar A. Guest

Summer Fun

by Regina Sauro

Summer is the time
For climbing trees,
Buzzing bees,
Picnic sprees,
And skinning knees!

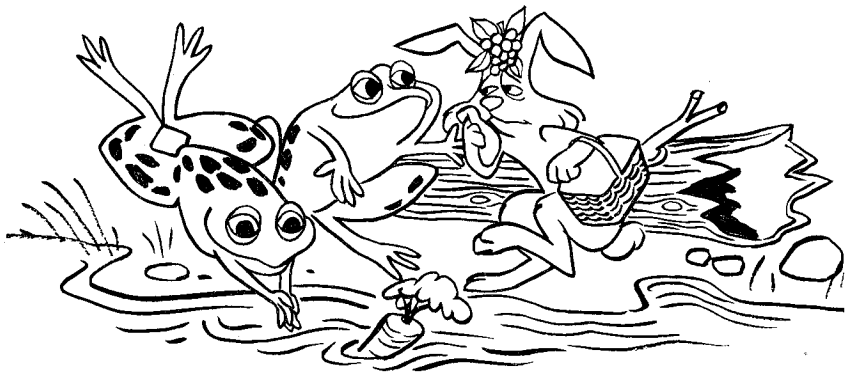
Tongue Twisters

Pretty perky Peggy's peppy puppy pranced proudly.

The bossy busybody bored and bothered the boss busy buying bushel baskets.

Freckle-faced Frank's funny-faced frog frightened frosty-faced Frieda.

Sammy says she should share Sarah's shawls.



"Hello, there, Speeder!"

Speeder, the spider, stopped swinging. "Where are you going in such a hurry?" he puffed.

"To visit Great Uncle Fred," they told him.

"Maybe Speeder would know the secret," said Leaper.

"What is it the more you give to someone—the more you have?"

Speeder smiled. "Professor Pog Wog always asks that. But you have to find out for yourself."

He started to spin again, but there was a stone in his way. He tried and tried.

"Let us help! We're strong!" Leaper and Loper pushed and pushed until the stone was moved away.

Speeder wiped his forehead. "Thank you! Thank you! My legs were aching and six legs make a lot of ache! You've made a happier day for me!"

"It made us happy, too!" Leaper and Loper waved and hopped merrily away.

Down by the clover patch they met Little Miss Flufftail, the rabbit. She was standing by Hollow Log Pond, looking very sad.

"What is the matter, Little Miss Flufftail?" asked Leaper, with sympathy.

Little Miss Flufftail wiped her eyes. "My shopping basket tipped over and two big

fresh carrots fell into the water!"

"We'll get them out for you in the whisk of a whisker!"

Splash! Splash! In the twink of a wink the carrots were back in the basket.

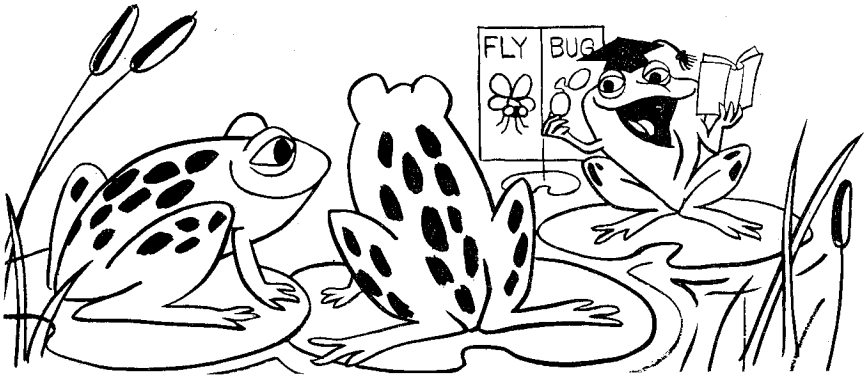
"Oh, thank you, Leaper and Loper!"

They told her all about Professor Pog Wog and his question.

Little Miss Flufftail nodded her soft little head. "You must find out yourselves. And thank you so much! I wish I could tell you how happy you have made me!"

"Made us happy, too!" Away they skipped. They stopped at Hollow Log Post





Professor Pog Wog's Secret

By Christine E. Scott

Leaper and Loper, the little frog twins, hopped slowly home from school. They were very puzzled. Professor Pog Wog had asked all the new little frogs a special question.

"What can the secret be?" Leaper jumped over Loper's back.

"Whoever heard of such a thing!" Loper hopped over Leaper's back. "What is it the more you give someone else—the more you have yourself?"

When they asked their mother, Mrs. Flossie Frog, she only smiled and said, "Professor Pog Wog asks that very question of all the new little frogs. Everyone needs to find out for himself."

"Sounds very hard," groaned Leaper, "to give away something and have more yourself." He shook his little green head and sighed.

Loper jumped up. "We promised to visit Great Uncle Fred after school!"

"And help smooth the lily pads on the pond," added Leaper.

"May we take a jar of your new jam?" asked Loper. "He likes it so much."

Mrs. Flossie Frog gave them the shiniest jar, and off they started.

They stopped at the old blackberry bush. There was Speeder, the spider, busily spinning his web. It looked like fun.



A Question of Convenience

RICHARD L. EVANS



We would turn today to what could be called a question of convenience: the doing of things when they should be done, or dodging the doing of things—postponing, delaying, learning only reluctantly, withholding service, withholding self, withholding willing work. The subject essentially revolves around this: Few things that require concentration, that require service, that require extra effort ever seem to be quite comfortable or convenient. And a person who doesn't want to put himself out for anyone or anything can always find an excuse for withholding himself or for feeling imposed upon. No sincere self-improvement, no service to others, no calls that we respond to, personally or professionally, are ever quite convenient—if we don't consider them so. Always there are other things we could be doing with our time, and if we are too self-satisfied or too self-centered, or to little disposed to learn, to work, to study, to serve, to accommodate, to extend ourselves, to put out extra effort, we may acquire a chronic "don't-bother-me attitude," and may somehow suppose that it is always easier for someone else to do what needs to be done. All of us need others. All of us are indebted to others. All of us are served by others. All of us should serve others. Furthermore, we can't develop by not doing. We can't tightly close up and still be open for opportunity. We can't learn without active effort. We can't develop our full capacity without putting out, without participating. And if habitually we shrink from effort and obligation and opportunity we shall surely stagnate and shrivel within our souls. "Cast thy bread upon the waters: for thou shalt find it after many days."¹ If we are too afraid we are not going to get back what we give, we may never give enough to get. We can't save life. We can only use it. We can only stretch time by stretching ourselves. The parable of the talents is still in effect and force: What we don't use, we can't increase. And so may we commend to all of us the attitude of getting up and going, of entering in and doing, of settling down and learning, of getting in and serving, of getting out and working, of improving our knowledge, our work, our willingness, our capacity and productivity, our output and performance, and stretching life by stretching ourselves, and not being restricted or stagnated by an overemphasis on comfort or convenience.

¹Ecclesiastes 11:1.

"The Spoken Word," from Temple Square presented over KSL and the Columbia Broadcasting System, September 30, 1962. Copyright 1962.

教義と聖約	
高価なる真珠	
モルモン経	上質革製合本……………1 1 0 0 円
教義と聖約	
高価なる真珠	
モルモン経	合本……………3 0 0 円
モルモン経	(新訳) ……3 0 0 円
信仰箇条の研究	……………3 3 0 円
モルモンとは？	(新版) ……1 5 0 円
総合聖句の手引	……………1 5 0 円
日本系図探究要覧	……………1 0 0 円
アロン神権者用学科課程	……………1 5 0 円
メルケゼデク神権、教師と生徒用	
「モルモン経の読み方の手引」	……………2 0 0 円
ナザレのイエス	……………1 0 0 円
正しい日本史	……………1 0 0 円
家督権の祝福	……………1 0 0 円
料理の作り方	……………5 0 円
求道者教育法	……………1 2 0 円
神の王国	……………2 3 0 円
基督・イエス	……………3 0 0 円

目曜学校用

モルモン経物語	150円
旧約聖書物語	150円
家族の昇栄	200円
福音の実践	200円
奇しきみわざ(上)(下)	200円
我等の標準聖典	200円
古代の使徒	150円
シオン山の救い手たち	200円
教義と聖約の教え	200円

M I A 用

我ら指導者のことば	2 0 0 円
我らは信じる	2 0 0 円
我らは生きる	1 2 0 円
我らは奉仕する (1966年度テキスト)	1 5 0 円
生 活 の 目 標	1 5 0 円
今 日 の 十 誠	2 5 0 円
M I A ・ エンサイン ・ ローレルの手引	1 5 0 円
演説が上手になる法	1 5 0 円
素晴しき考え (1966年度テキスト)	2 0 0 円

讚美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）	400	円
レクリエーション歌集	400	円

…………注文は各支部長へ…………

THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION

TEL (473) 1613. 14 Azabuhirōo-cho Minato-ku Tokyo Japan

支 部 所 在 地

北海道地方部	旭川	旭川市八条五丁目 MIA集会場 旭川公会堂 電話(二一五四五) 室蘭市幸町八九 電話(七〇五四)
	小樽	小樽市富岡町一ノ三五 電話(二一八二四)
	札幌	札幌市北二条西二丁目 電話(六三三七八六六)
東中央地方部	群馬	高崎市並榎町二七五 電話(二一七二二)
甲府	甲府市山田町六三	
松本	松本市幸町三八四 百瀬方	電話(二一六〇〇)
新潟	新潟市中大畑町五五七	電話(二一八六六〇)
仙台	仙台市光禪寺通り二八	電話(二五〇八九七)
東京中央	東京都港区青山北町六ノ三四	電話(四〇八三三〇七)
東京北	東京都中野区江原町一ノ八ノ十四	電話(九五二)一五三一
東京東	東京都江戸川区小岩町六一七八〇	電話(六五七一五二三)
東京南	東京都大田区南千束町二四九	電話(七二九一六三一)
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七	電話(二一六七六四)

山形	山形市七日町四丁目十二ノ二十三
横浜	横浜市港北区篠原町二九 電話(四九一八七七二)
西中央地方部	
阿倍野	大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八 電話(六二一八三三七)
福岡	福岡市浄水町四六 電話(五二一八六五三)
広島	広島市古田町古江四〇〇ノ三 電話(三一六一三五)
金沢	金沢市上胡桃町一
京都	京都市左京区下鴨松原町四四
名古屋	名古屋市中昭和区北山町三ノ四一 電話(七三三四二〇)
西ノ宮	兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四 電話(五〇一四一)
岡町	大阪府豊中市岡町北二ノ一八 電話(二一三三六)
岡山	岡山市北方七〇
三ノ宮	神戸市灘区篠原本町四ノ三五 電話(八六一二六〇二)
柳井	山口県柳井市今市三九一
沖繩地方部	
普天間	沖縄宜野湾市野嵩区三二八
那覇	沖縄那覇市松尾区一三九
建築部事務所	東京都港区青山北町六ノ三四

聖 徒 の 道

1965年8月1日発行

振替口座 東京 16226 番

発行人兼 編集人 ダウエン・N・アンダーセン

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部

東京都港区麻布広尾町14 (473) 1613

印刷所 合名会社 三五堂